

## 汚物流し／補高台

品番：SK330C・SK330F

安全に関するご注意	1
同梱部品	1
別途発注部品一覧とその同梱内容	2
各部のなまえと施工のポイント(汚物流しのみ施工時)	3～4
各部のなまえと施工のポイント(汚物流しと補高台施工時)	5～6

■工事内容に応じて指定のページをご参照ください。  
 ※各記載方法はフラッシュバルブセットを表します。  
 タンクセットの場合は( )寸法を参照ください。

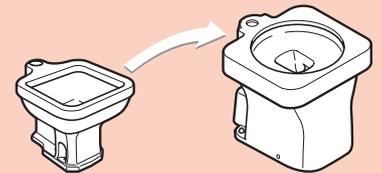
## 汚物流しのための施工方法

○新設の場合 7



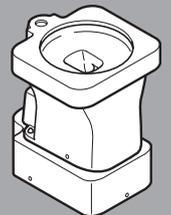
## 汚物流しのための施工方法

○リモデルの場合 13



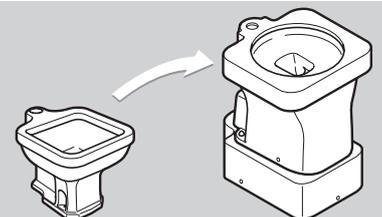
## 汚物流しと補高台の施工方法

○新設の場合 19

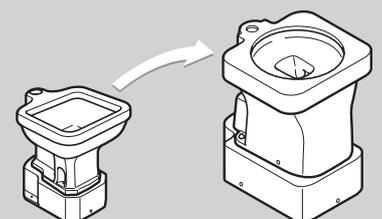


## 汚物流しと補高台の施工方法

○「汚物流しのみ」からのリモデルの場合 26



○「汚物流しと補高台付き」からのリモデルの場合 35



取り付け完了後の確認 44

別途発注部品の施工方法 45

Pシールの施工方法 47

- 取扱説明書の保証書に必要事項を記入のうえ、必ずお客様にお渡しください。
- 汚物流しの機能、使いかたについてお客様に説明してください。

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けください。  
取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

## 安全に関するご注意 (安全のために必ずお守りください)

施工の前に、この「安全に関するご注意」をよくお読みのうえ、正しくお取り付けください。この説明書では、商品を安全に正しくお取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。  
その表示と意味は次のようになっています。

表示	意味
	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。  
お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	<b>は、してはいけない</b> 「禁止」内容です。 左図は、「禁止」を示します。		<b>は、必ず実行していた</b> 「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。
--	---	--	--

⚠️ 注意	
	<b>甲板や各器具の上に乗ったり、重いものを載せない</b> 故障やけがの原因になります。
	<b>強い力や衝撃を与えない</b> 破損して、やけど・けがをしたり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
	<b>フラッシュバルブの通水路には抵抗となるような部材（オリフィスなど）をつけない</b> 洗浄性能への悪影響や、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

⚠️ 注意	
	<b>設置工事に使用する部品は必ず付属部品および指定部品を使用する</b> 正常な取り付けができなくなる可能性があります。
	<b>設置工事は、この説明書に従って確実にを行う</b> 故障や水漏れの原因になります。
	<b>各器具の補修を行う場合は、水漏れ防止のため、必ずパイプシャフト内の元バルブも締めて作業を行う</b> 水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
	<b>作業時は手袋、防じんマスクなど適切な防護具を使用する</b> 予期しないけがをする原因になります。
	<b>汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う</b> 腰を痛めたり、器具を落として破損してけがをする原因になります。
	<b>本製品は寒冷地対応品ではないため、凍結のおそれがある場合は、必ず凍結予防のための保温処理（保温材巻、電気ヒーターなど）を行う</b> 凍結破損し、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
<b>工事完了後、給排水管から水漏れがないか確認する</b> 水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。	

## (汚物流し) 同梱部品

■部品があるか、下記を参照して確認してください。

汚物流し	掃除口ふた部品	排水アジャスター	Pシール
	ふた本体 (1個) パッキン (1個) ワッシャー (1個) 六角穴付きボタンスクリュー (3個) 六角棒スパナ (1個)	床フランジ接続部 (1個) 接続部 (ゴムジョイント付き) (1個) 横引管 (1個) Tボルト (2本) ナット (床フランジ接続部用) (2個) ワッシャー (2枚)	樹脂・金属フランジ兼用 (1個)
固定片・固定金具類		化粧キャップ類	その他
固定片 (2個) 皿木ねじ (φ5.8×63:2本) 木ねじ(固定片用) (φ5×65:4本) 木ねじ(接続部用) (φ6×60:2本)	化粧キャップ(横) (2個) 化粧キャップ(後) (2個) ワッシャー(後部固定用) (2枚) 取付木ねじ (φ4.8×63:2本)	本紙 施工説明書 (1部) 取扱説明書 (1部)	樹脂・金属フランジ兼用 (1個)

※ [ ] の部品は補修部品として、購入できます。

## (補高台) 同梱部品

■部品があるか、下記を参照して確認してください。

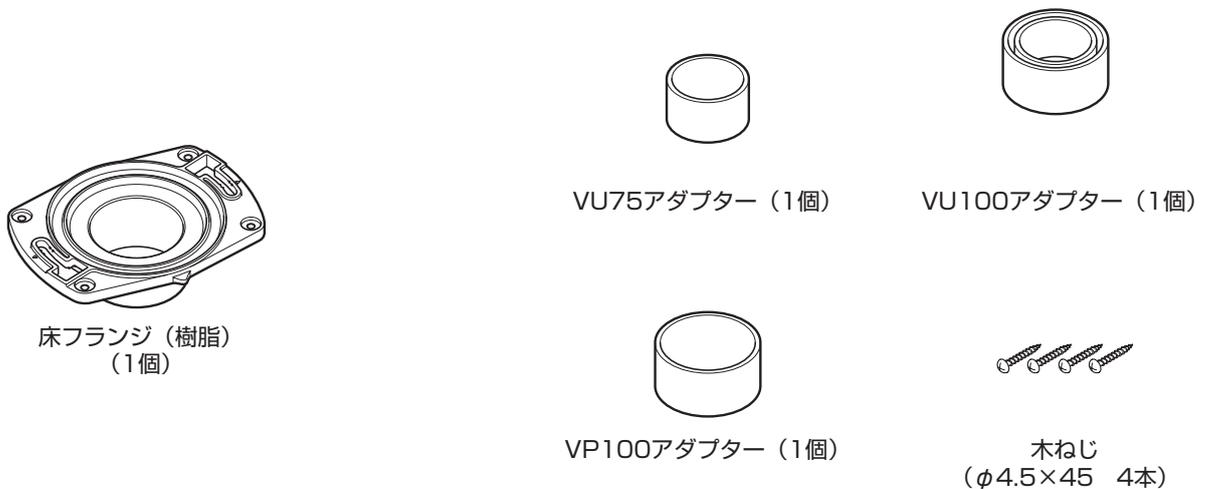
補高台	固定片・固定金具類
	固定片 (3個) 化粧キャップ (3個)
その他	皿木ねじ(側面用) (φ5.8×63:2本) 皿木ねじ(前面用) (φ5.8×75:1本) 木ねじ(固定片用) (φ5×50:6本)
施工説明書 (1部) 位置決めシート (1部)	クッション材 (1本)

# 別途発注部品一覧とその同梱内容

用途	配管種別	別途発注部品品番	名称	備考	
汚物流しのみ	新設	塩ビ管	HP330P	床フランジ (塩ビ管用)	VP/VU用
		鉛管	HP330W	床フランジ (鉛管用)	鉛管用
	リモデル	塩ビ管	—	—	—
		鉛管	—	—	—
補高台付き	新設	塩ビ管	HP330P	床フランジ (塩ビ管用)	VP/VU用
		鉛管	HP330W	床フランジ (鉛管用)	鉛管用
	リモデル	塩ビ管	HP330F	ソケット (塩ビ・鉛管共用)	—
		鉛管			

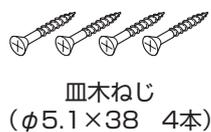
## ■別途発注部品の同梱内容について

HP330P (使用用途：汚物流し新設 (塩ビ管)) 施工方法の詳細はP.45～P.47を参照ください。



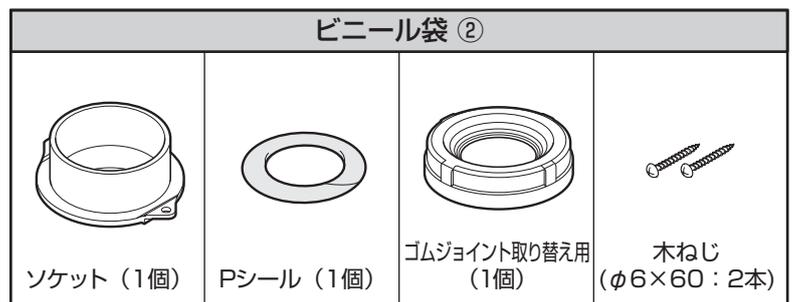
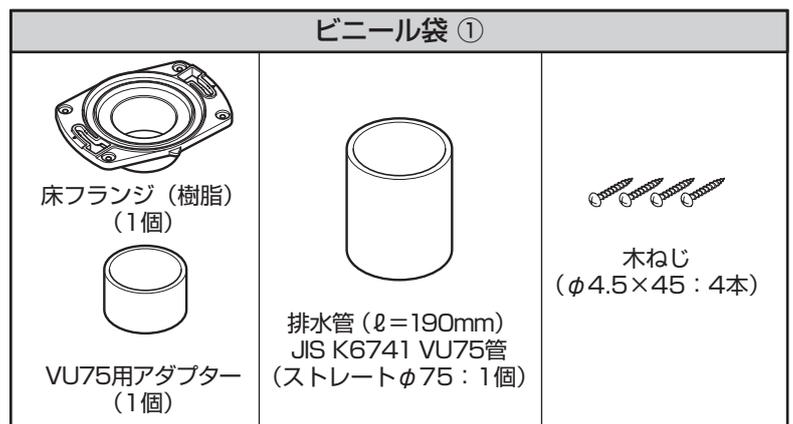
## HP330W

(使用用途：汚物流し新設 (鉛管))  
施工方法の詳細はP.45～P.47を参照  
ください。



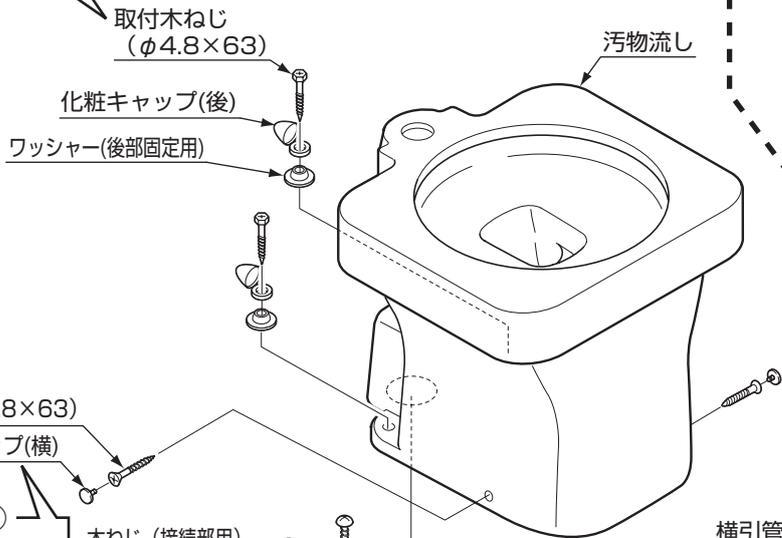
## HP330F

(使用用途：汚物流しと補高台リモデル (塩ビ・鉛管兼用))  
施工方法の詳細はP.45～P.47を参照ください。

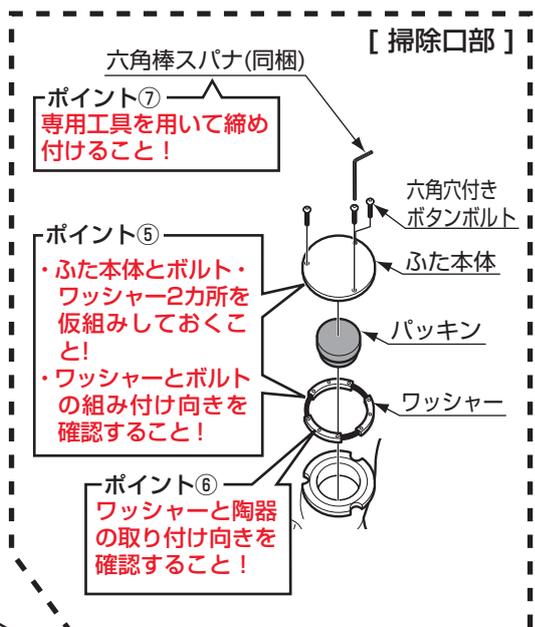


# 各部のなまえと施工のポイント(汚物流しのみ施工時)

木ねじを強く締め過ぎて汚物流しを割らないように注意すること！最後の締め増しは手締めで行うこと！



**ポイント④**  
汚物流し後ろ側の固定を先に行うこと！締め過ぎて汚物流しを割らないこと！



**ポイント①**  
横引管は印字している目盛り寸法と、取付基準線から床フランジ接続部中心線までの測定寸法が合う位置で切断すること！

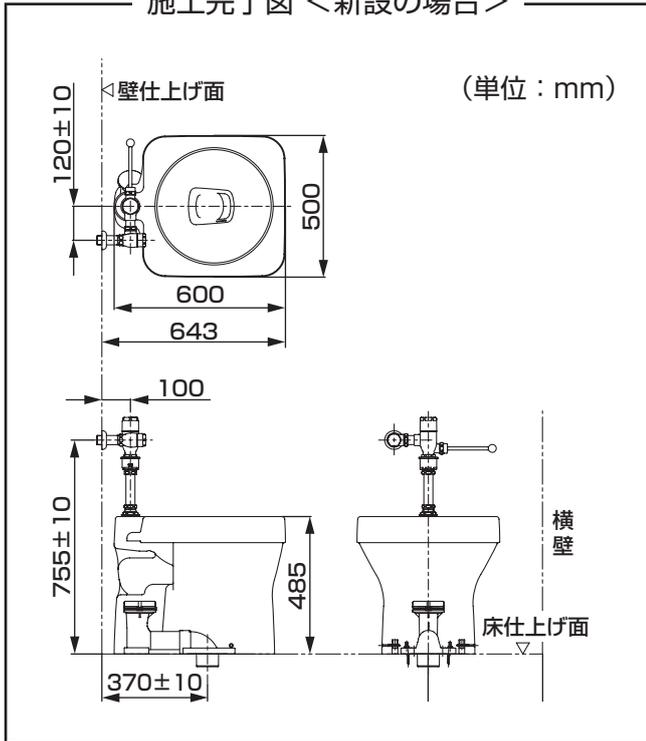
**ポイント③**  
Pシールの種類および施工方法は床フランジの種類によって異なる(⇒P.47参照)

**ポイント②**  
位置決めシートで固定片の位置をきちんと出すこと！

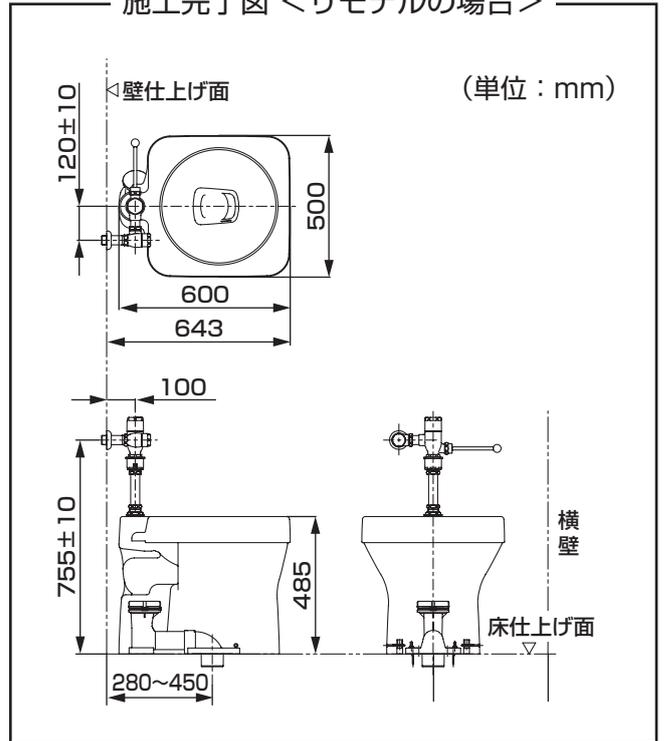
新設現場では、先に床フランジを取り付けること！(⇒P.2参照)

## 【フラッシュバルブの場合】

施工完了図 <新設の場合>

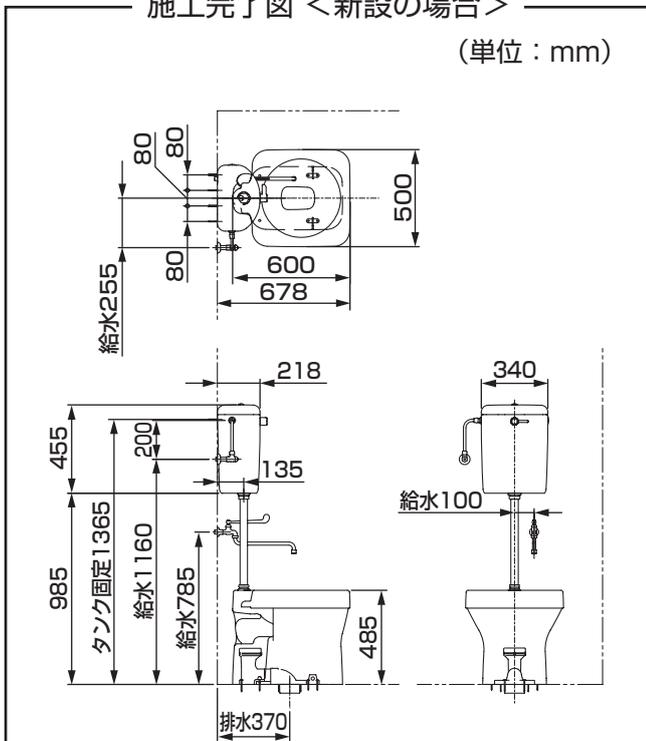


施工完了図 <リモデルの場合>

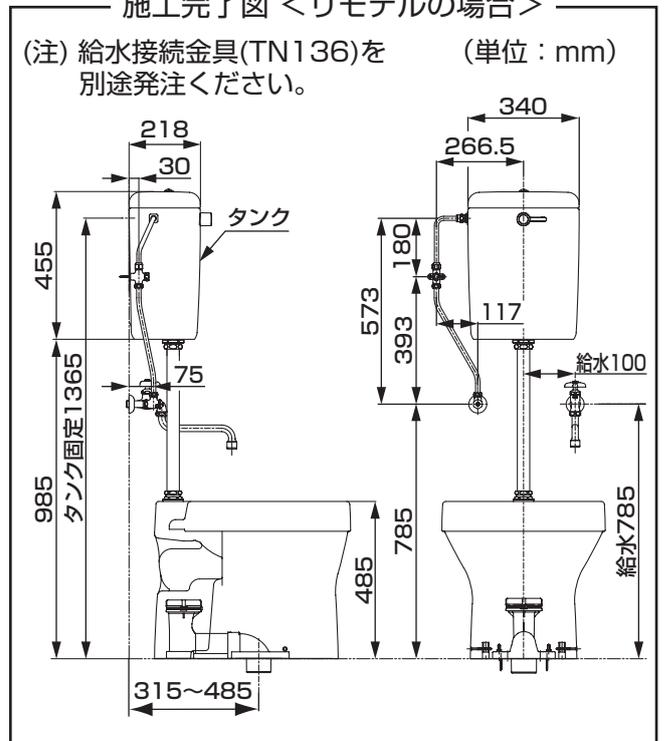


## 【タンクセットの場合】

施工完了図 <新設の場合>

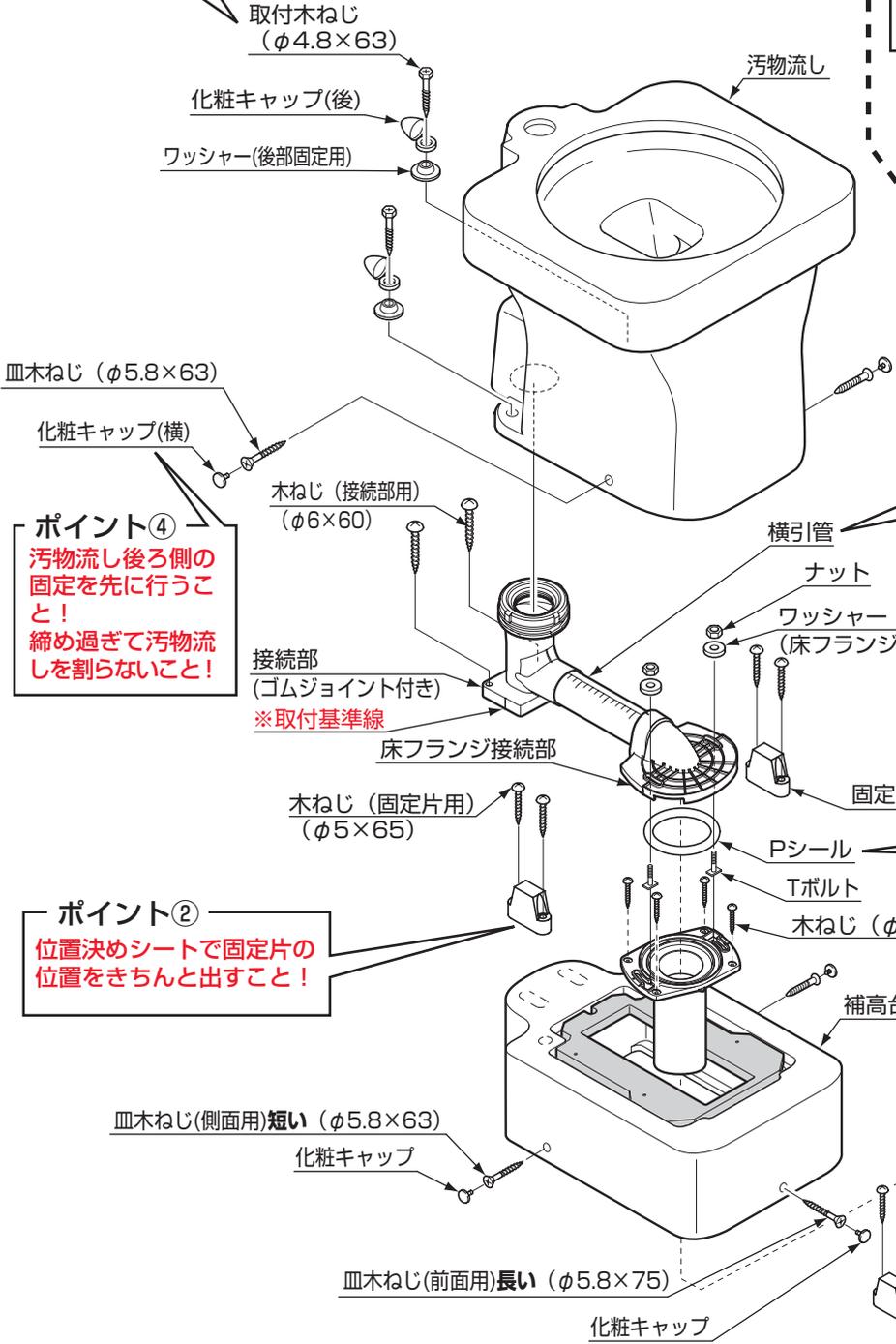
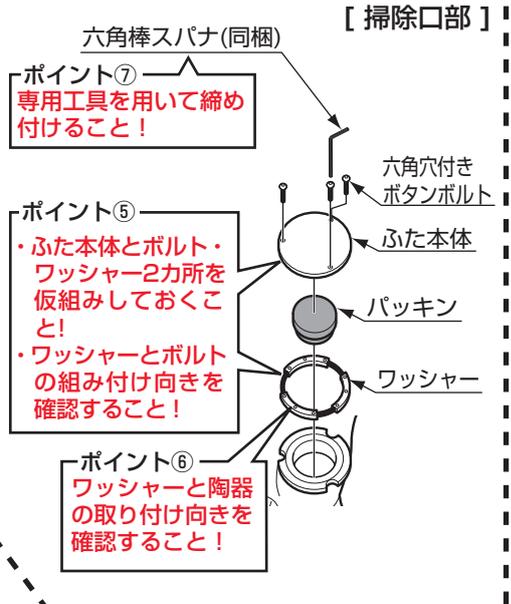


施工完了図 <リモデルの場合>



# 各部のなまえと施工のポイント(汚物流しと補高台施工時)

木ねじを強く締め過ぎて汚物流しを割らないように注意すること！最後の締め増しは手締めで行うこと！



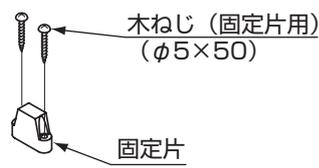
**ポイント①**  
横引管は印字している目盛り寸法と、取付基準線から床フランジ接続部中心線までの測定寸法が合う位置で切断すること！

**ポイント④**  
汚物流し後ろ側の固定を先に行うこと！締め過ぎて汚物流しを割らないこと！

**ポイント③**  
Pシールの種類および施工方法は床フランジの種類によって異なる (⇒P.47参照)

新設現場では、排水管を230mm立ち上げること！

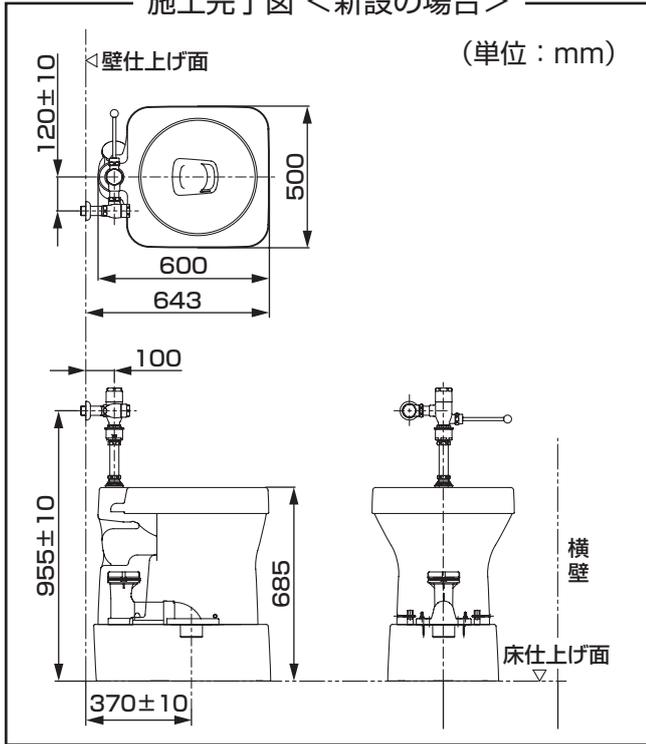
**ポイント②**  
位置決めシートで固定片の位置をきちんと出すこと！



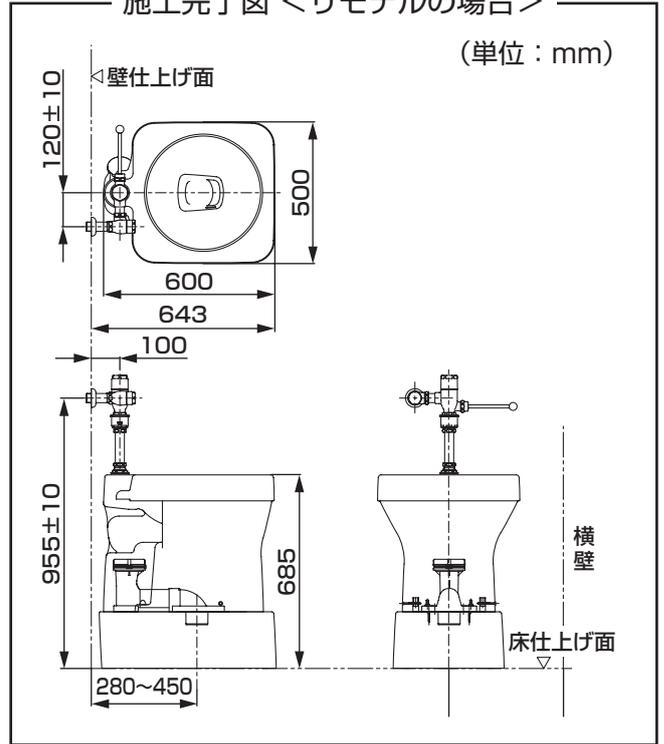
**ポイント②**  
位置決めシートで固定片の位置をきちんと出すこと！

## 【フラッシュバルブの場合】

施工完了図 <新設の場合>

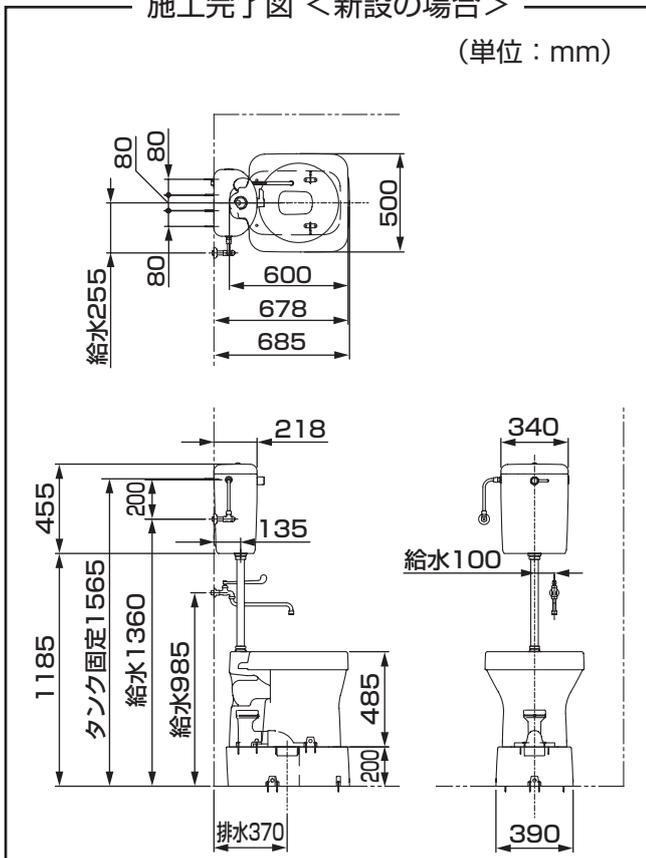


施工完了図 <リモデルの場合>

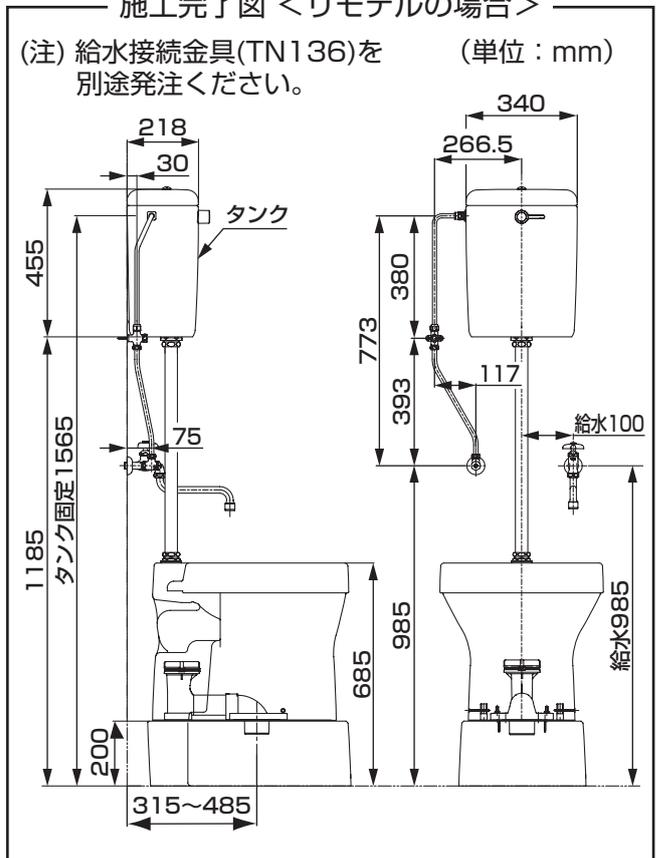


## 【タンクセットの場合】

施工完了図 <新設の場合>



施工完了図 <リモデルの場合>

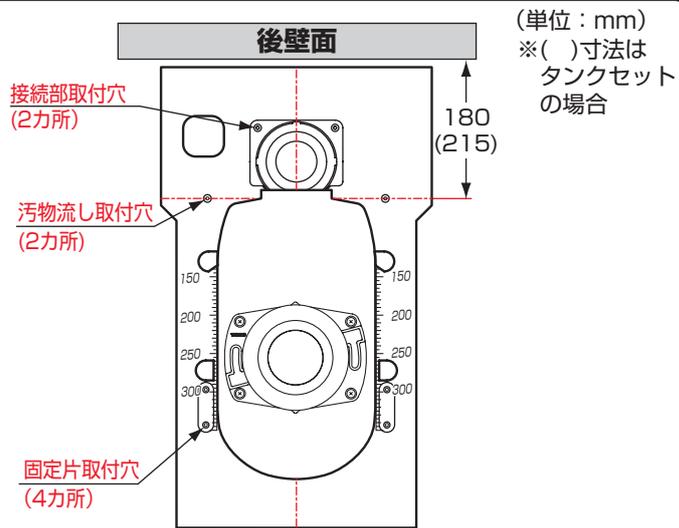




### 3 取付穴位置のけがき

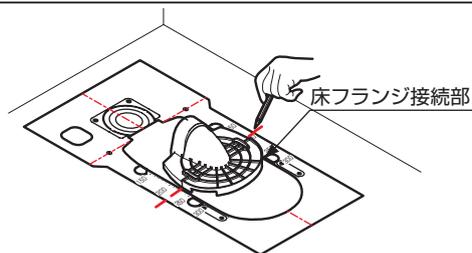
- ①②であわせた位置に位置決めシートを置く。
- ②接続部取付穴位置、汚物流し取付穴位置および固定片取付穴位置（8カ所）をけがく。

※床に木ねじをねじ込む前に、 $\phi 3$ 程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



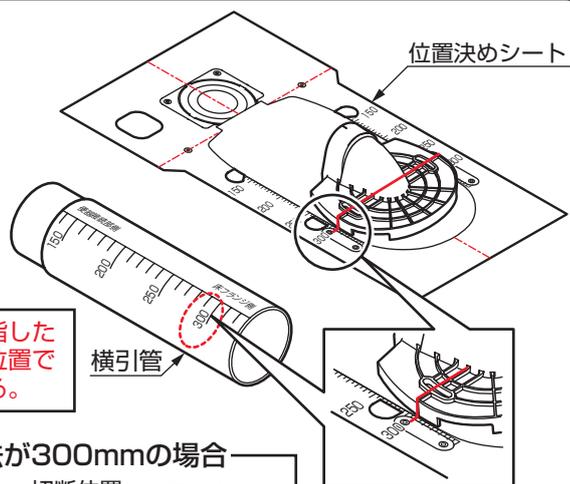
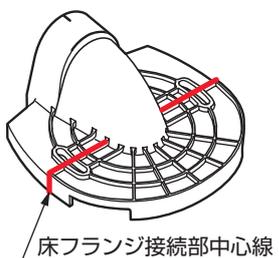
### 4 床フランジ接続部の仮置き

- ①床フランジ接続部を床フランジ上に仮置きする。  
※このときPシールは取り付けないでください。
- ②床フランジ接続部の中心位置を位置決めシートと床にけがく。



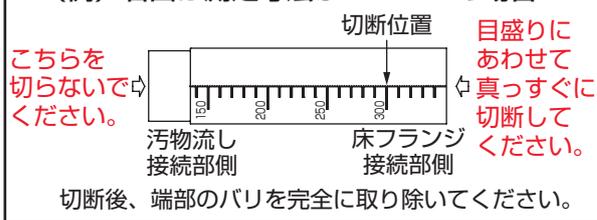
### 5 横引管の切断

床フランジ接続部中心線が指す、位置決めシートの目盛り位置と同じ目盛り位置で横引管を切断する。



床フランジ接続部中心線が指した目盛り位置と、同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する。

(例) 右図は測定寸法が300mmの場合



### 6 排水アジャスターの組み立て

#### ⚠ 注意

横引管は最後まで、きちんと押し込む

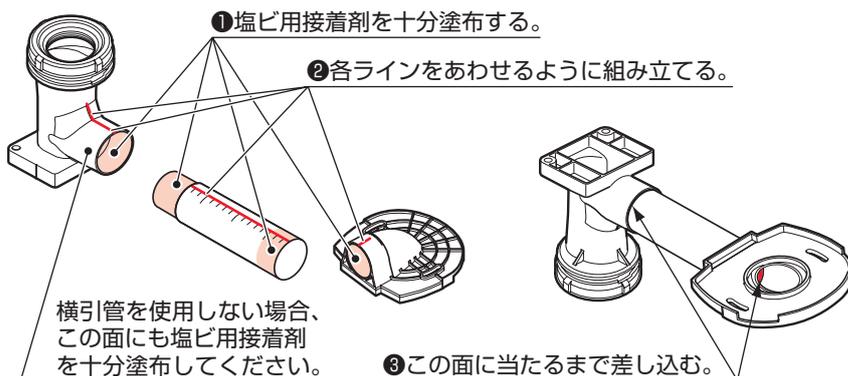
接着が不十分だと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

床面に対してガタツキがないように接着する

ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行



## 7 固定片と排水アジャスターの取り付け

※各床フランジ、Pシールの施工方法はP.45～P.47をご確認ください。  
正しい取付方法で取り付けしないと洗浄不良などの不具合や汚物流しが詰まり、汚水があふれたり水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

①床フランジにTボルト（2カ所）をセットする。

②Pシールを取り付ける。

※Pシールの円の中心が床フランジの円の中心にくるイメージで、床フランジの縁に均等に載るようにPシールを取り付けてください。

※Pシールの取り扱いについては、P.47を参照ください。

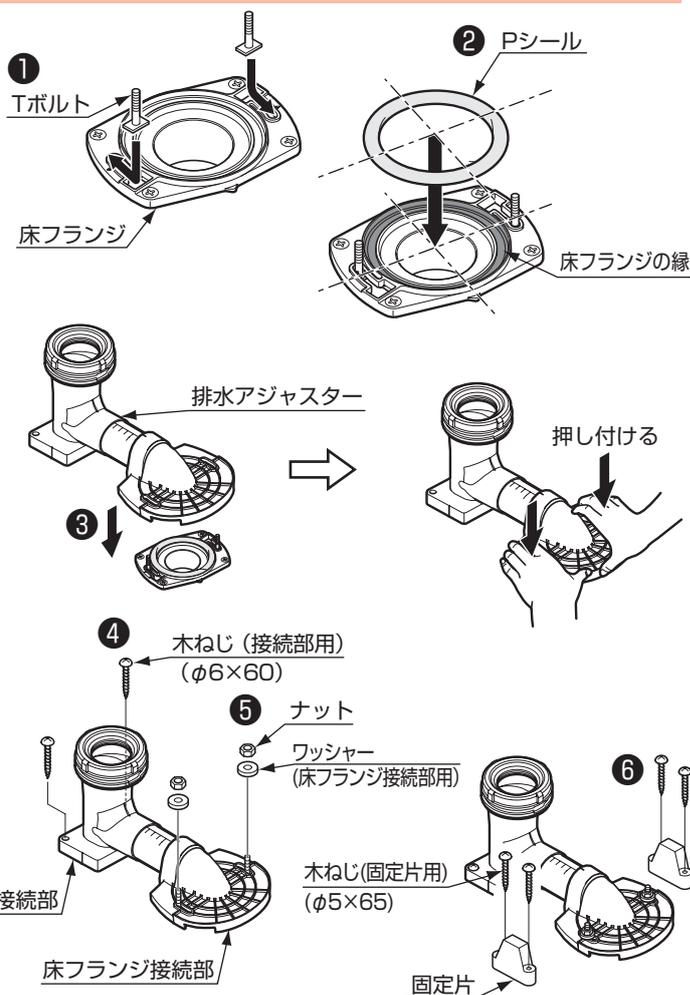
③排水アジャスターを床フランジに押し付ける。

④接続部の取付穴(2カ所)に木ねじ(接続部用)を入れ、確実に締め付ける。

⑤床フランジ接続部を、ワッシャー(床フランジ接続部用)・ナットで床フランジに固定する。

※排水ソケットの床フランジ接続部取付基準線が床にけがいた線に合うように固定してください。

⑥固定片を所定の位置に、木ねじ(固定片用)で床に固定する。



## 8 汚物流しの取り付け

### ⚠️ 注意



必ず実行

汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う

腰を痛めたり、器具を落として破損してけがをする原因になります。

汚物流し後ろ側の固定を必ず先に行う

横側の固定を先に行うと、汚物流しが移動し、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

①汚物流し排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、汚物流し排水口を接続部に差し込む。

②汚物流し後ろ側の取付穴（2カ所）に取付木ねじ・化粧キャップ（後）・ワッシャー（後部固定用）を差し込み、汚物流しを床に固定する。

③汚物流し側面の取付穴に皿木ねじを差し込み、固定片に汚物流しを固定し、ねじの頭に化粧キャップ（横）を差し込む。

### 手順2

取付木ねじを締め付ける。  
締め過ぎて汚物流しを割らないように注意してください。

### 手順1

汚物流し排水口を接続部に差し込む。

接続部

### 手順3

皿木ねじを締め付ける。  
最後の締め増しは手締めにより行い汚物流しを割らないように注意してください。

床面に不陸がある場合、汚物流し下面にかい物をして汚物流しを固定したあと、すき間を白セメントなどで埋めて仕上げてください。

すき間は白セメントなどで埋めて仕上げる。

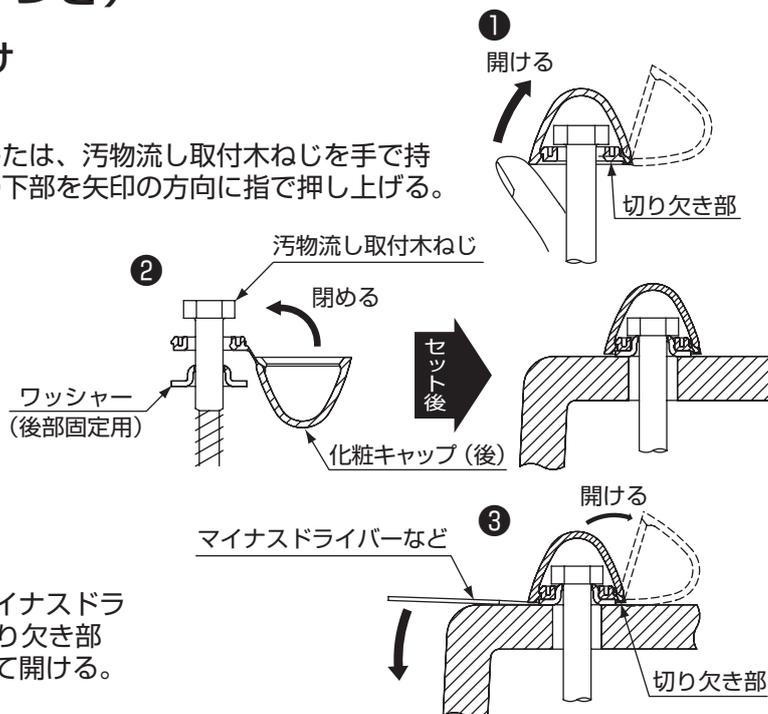
かい物

## 8 汚物流しの取り付け (つづき)

### ※化粧キャップ付きねじの取り付け

#### <取り付け>

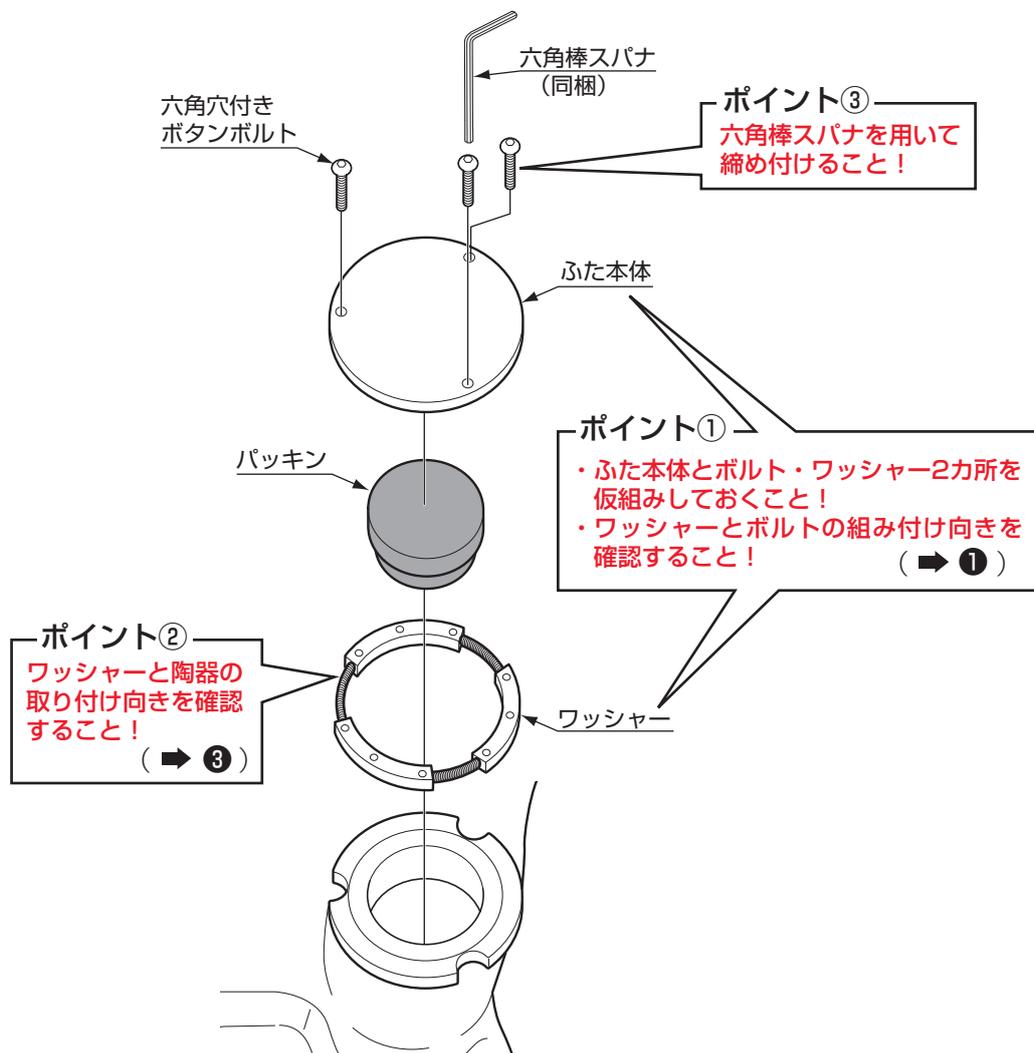
- ①最初に化粧キャップ(後)を開ける。開けかたは、汚物流し取付木ねじを手で持ち切り欠き部をよけて化粧キャップ(後)の下部を矢印の方向に指で押し上げる。
- ②汚物流し取付木ねじを取り付ける前に、化粧キャップ(後)とワッシャー(後部固定用)の順番、向きを確認し、間違えないよう取り付ける。
- ③汚物流し取付木ねじを取り付けたあとは、化粧キャップ(後)を矢印の方向に曲げて「パチッ」と音がするまで押し込む。



#### <取り外し>

施工後に汚物流し取付木ねじを外すときは、マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップ(後)の切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開ける。

## 9 掃除口の取り付け



## 9 掃除口の取り付け（つづき）

### ① 部品の仮組み

2カ所のみ仮組みする。

※残りの1カ所は④-②を参照してください。

### ⚠ 注意



必ず実行

ワッシャーは正しい向きに取り付ける  
反対向きに取り付けると陶器または部品が破  
損するおそれがあります。

### ② パッキンの取り付け

パッキンを掃除口に取り付ける。

### ③ ふた本体の取り付け

① 仮組みしていないワッシャーを手前の掃除口のフ  
ランジに掛け、ばねの伸びを利用して掃除口の後  
方2カ所の切り欠きa,bに ①で組み立てた本体を  
押し広げるように掃除口のフランジにかぶせて引  
っ掛ける。

② ワッシャーとふた本体で掃除口のフランジを挟み  
込むようにする。

### ④ ふた本体の仮締め

① ふた本体に手を添えて、汚物流し掃除口部と中  
心が合うようにふた本体の位置を調整しながら  
2本の六角穴付きボタンボルト(a,b)を締め付ける。

② c部に六角穴付きボタンボルト・ワッシャーを取  
り付け、仮締めする。

### ⚠ 注意



必ず実行

締め付けについては、汚物流し同梱の専用工  
具（六角棒スパナ）を右図の向きで使用す  
る  
誤った向きでの締め付けや、専用工具以外での締め付  
けは陶器または部品が破損するおそれがあります。

### ⑤ ふた本体の固定

固定の際は、専用工具（六角棒スパナ）を用いて、  
a, b, c を均等に締め付ける。

### ⑥ 固定の確認

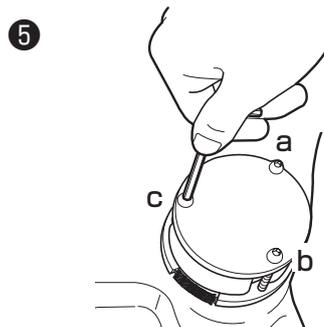
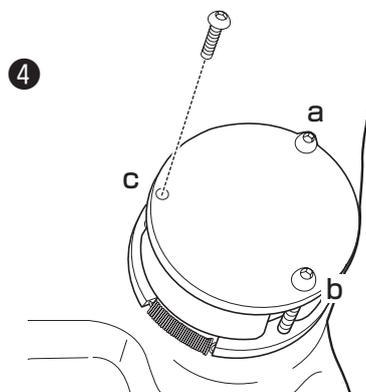
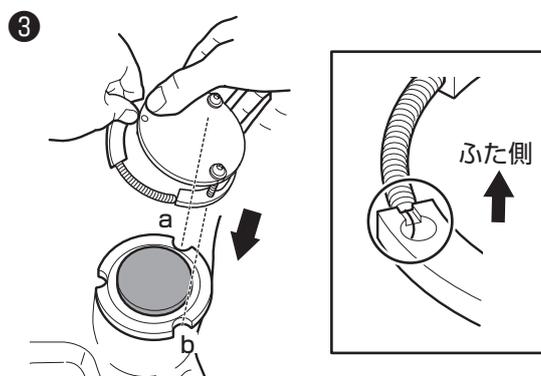
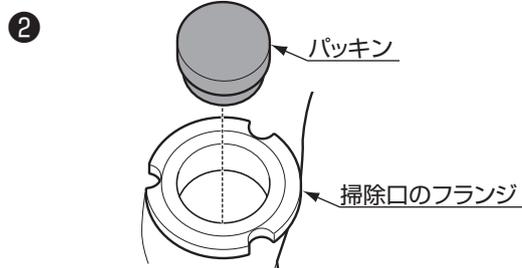
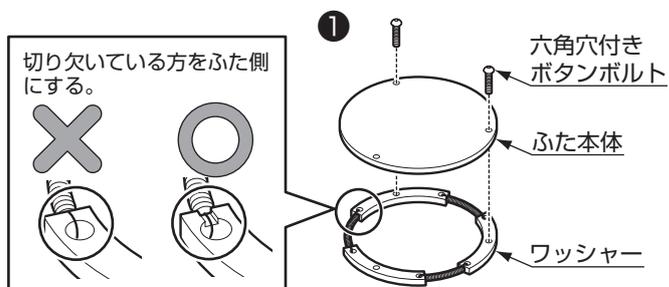
ふた本体が確実に固定されているか確認する。

### ⚠ 注意



必ず実行

必ずふたを確実に固定したことを確認し  
たうえで、洗浄を行うようにする  
水漏れにより家財に損害を与えるおそれがあります。  
万一水漏れする場合には締め増しをしてください。



給水装置の施工説明書に沿って給水装置を施工してください。

## 10 水勢調整

水勢調整注意書ラベルを参照し、適正な水勢に調整してください。

### ⚠ 注意

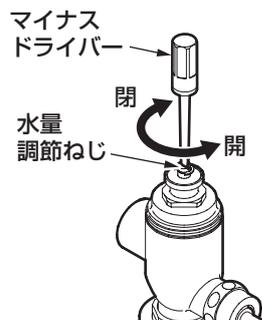
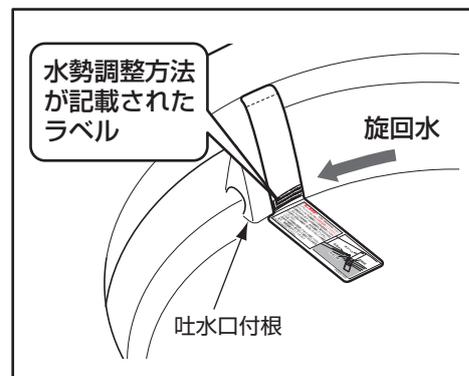


必ず実行

必ず2~3回流して洗浄水が飛び出していないことを確認する  
 汚物流し洗浄中に洗浄水が飛び出している場合は止水栓を絞り再度調整を行う  
 そのまま放置すると、洗浄水があふれて家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

〈低水圧現場で低水圧フラッシュバルブをご使用の場合〉  
 止水栓全開でご使用ください。  
 その後、洗浄水のあふれがないかご確認ください。

〈タンク式をご使用の場合〉  
 水勢調整の必要はありません。



※施工後は必ずP.44「取り付け完了後の確認」を参照ください。

## 施工手順

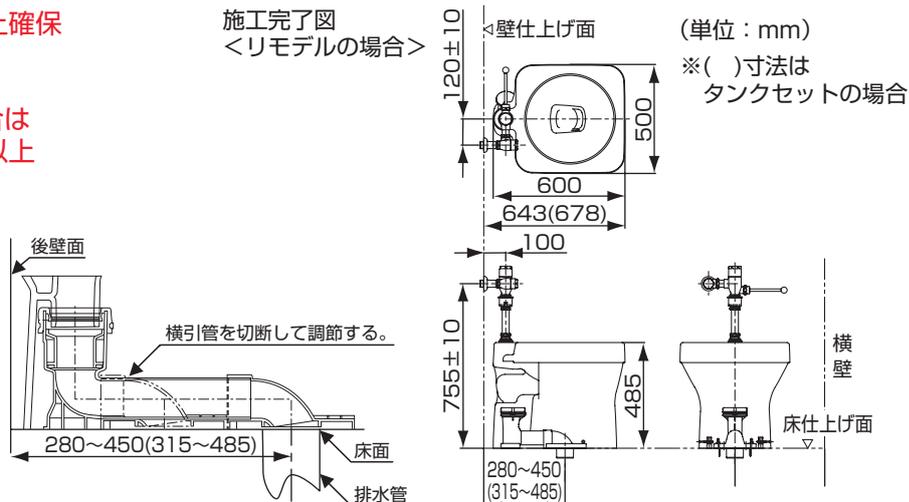


## 取り付け前のご注意

- 取り付けに必要なスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
- 給水圧力は最低必要水圧(流動時)：0.07MPa、最高水圧(静止時)：0.75MPaです。この圧力範囲でご使用ください。(フラッシュバルブ時)
- 施工前に給水取り出し位置および排水管位置が所定の位置であることを確認してください。

- 汚物流し中心から横壁まで350mm以上確保してください。

(施工・掃除口メンテナンスのため)  
ただし、レバー式自在水栓を使用の場合は  
レバー操作のため、横壁から450mm以上  
確保してください。  
タッチスイッチユニット取り付け時は、  
500mm以上確保してください。



## 既存品汚物流しの撤去

## 取付方法

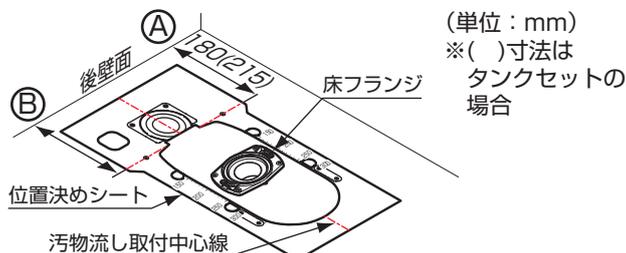
### 1 床フランジ部の処理

※床フランジ(樹脂)の場合  
ゴムパッキン、白色パッキンは使用しません。

※床フランジ(金属)の場合  
既設床フランジからPシールをきれいに取り除いてください。

### 2 位置決めシートへの位置決め

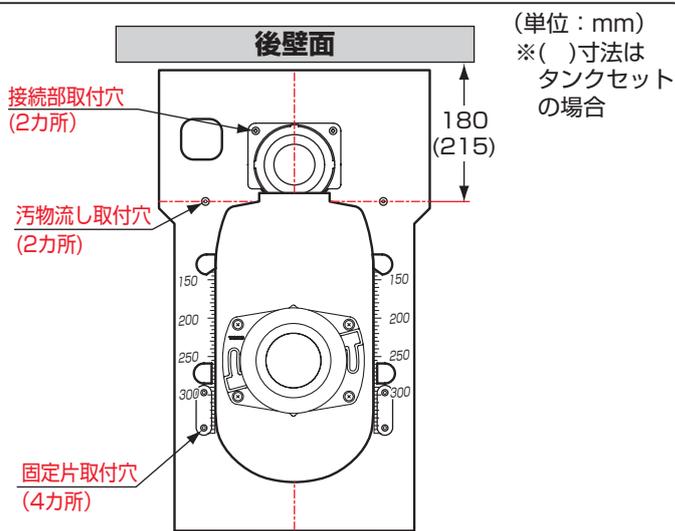
後壁面から180(215)mmの位置に位置決めシートの取付基準線をあわせて置く。  
※取付基準線の位置決めは、(A) (B) 2カ所で行ってください。



### 3 取付穴位置のけがき

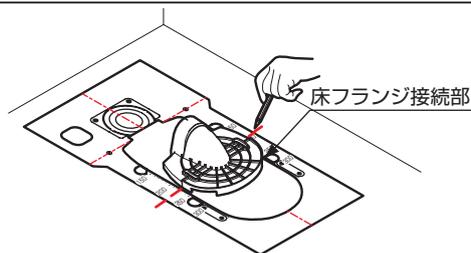
- ①②であわせた位置に位置決めシートを置く。
- ②接続部取付穴位置、汚物流し取付穴位置および固定片取付穴位置(8カ所)をけがく。

※床に木ねじをねじ込む前に、  
φ3程度の下穴をあけると  
作業がしやすくなります。



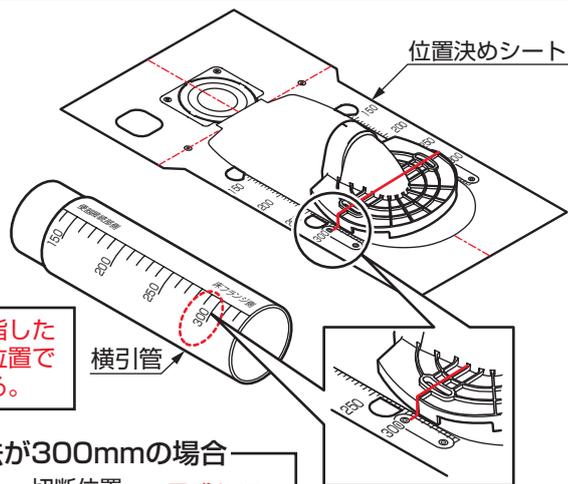
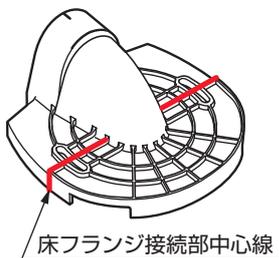
### 4 床フランジ接続部の仮置き

- ①床フランジ接続部を床フランジ上に仮置きする。  
※このときPシールは取り付けないでください。
- ②床フランジ接続部の中心位置を位置決めシートと床にけがく。



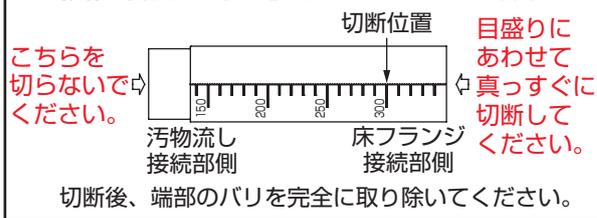
### 5 横引管の切断

床フランジ接続部中心線が指す、位置決めシートの目盛り位置と同じ目盛り位置で横引管を切断する。



床フランジ接続部中心線が指した目盛り位置と、同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する。

(例) 右図は測定寸法が300mmの場合



※目盛り位置が「135」にある場合、横引管は不要です。

### 6 排水アジャスターの組み立て

#### ⚠ 注意

横引管は最後まで、きちんと押し込む

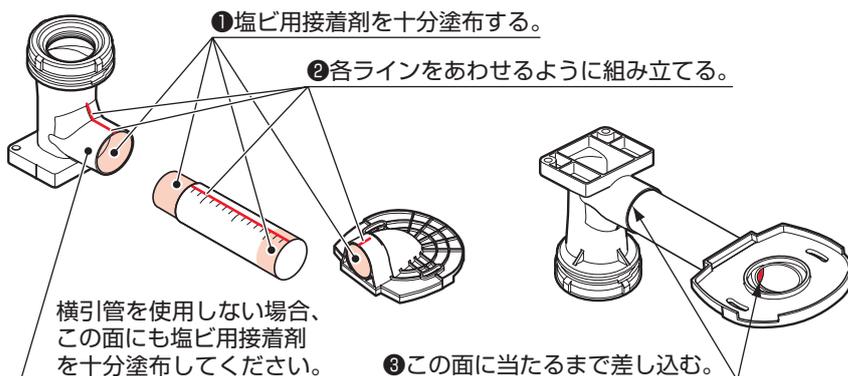
接着が不十分だと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

床面に対してガタツキがないように接着する

ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行



## 7 固定片と排水アジャスターの取り付け

※各床フランジ、Pシールの施工方法はP.45～P.47をご確認ください。

正しい取付方法で取り付けしないと洗浄不良などの不具合や汚物流しが詰まり、汚水があふれたり水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

①床フランジにTボルト（2カ所）をセットする。

②Pシールを取り付ける。

※Pシールの円の中心が床フランジの円の中心にくるイメージで、床フランジの縁に均等に載るようにPシールを取り付けてください。

※Pシールの取り扱いについては、P.47を参照ください。

③排水アジャスターを床フランジに押し付ける。

### 【陶器入れ替えの場合の注意事項】

陶器破損などで陶器入れ替えの場合、下記2点に注意してください。

■固定片に取り付けているねじにワッシャーがある場合  
・取り付けられているねじを流用または補修品ねじを注文して施工してください。

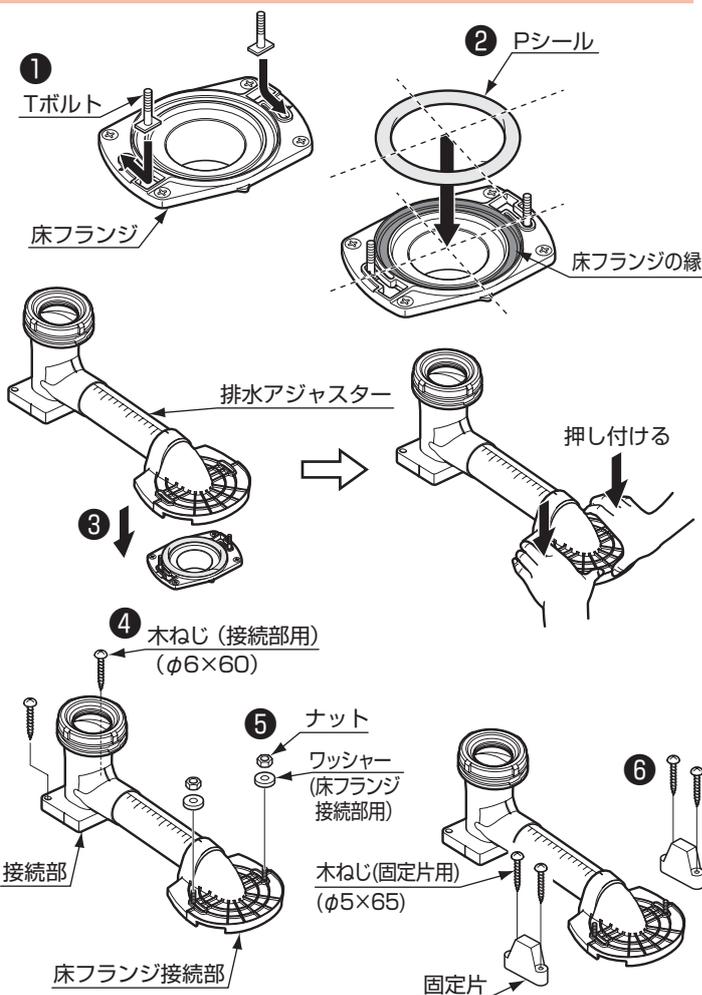
■固定片に取り付けているねじにワッシャーがない場合  
・製品同梱のねじで施工してください。

④接続部の取付穴(2カ所)に木ねじ(接続部用)を入れ、確実に締め付ける。

⑤床フランジ接続部を、ワッシャー(床フランジ接続部用)・ナットで床フランジに固定する。

※排水ソケットの床フランジ接続部取付基準線が床にけがいた線に合うように固定してください。

⑥固定片を所定の位置に、木ねじ(固定片用)で床に固定する。



## 8 汚物流しの取り付け

### ⚠注意



必ず実行

汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う

腰を痛めたり、器具を落として破損してけがをする原因になります。

汚物流し後ろ側の固定を必ず先に行う

横側の固定を先に行くと、汚物流しが移動し、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

①汚物流し排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、汚物流し排水口を接続部に差し込む。

②汚物流し後ろ側の取付穴（2カ所）に取付木ねじ・化粧キャップ（後）・ワッシャー（後部固定用）を差し込み、汚物流しを床に固定する。

③汚物流し側面の取付穴に皿木ねじを差し込み、固定片に汚物流しを固定し、ねじの頭に化粧キャップ（横）を差し込む。

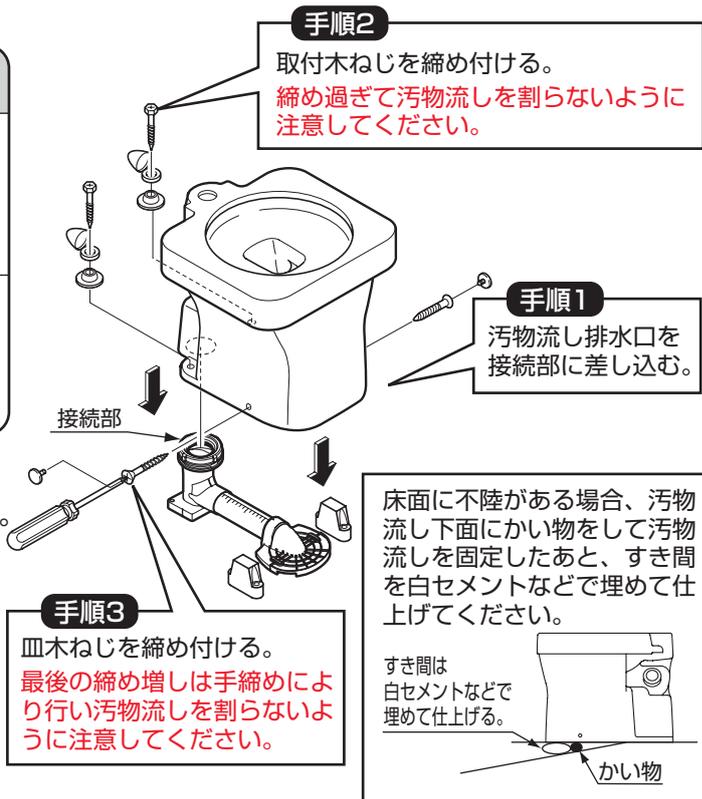
### 手順2

取付木ねじを締め付ける。

締め過ぎて汚物流しを割らないように注意してください。

### 手順1

汚物流し排水口を接続部に差し込む。



### 手順3

皿木ねじを締め付ける。

最後の締め増しは手締めにより行い汚物流しを割らないように注意してください。

床面に不陸がある場合、汚物流し下面にかい物をして汚物流しを固定したあと、すき間を白セメントなどで埋めて仕上げてください。

すき間は白セメントなどで埋めて仕上げる。

かい物

## 8 汚物流しの取り付け (つづき)

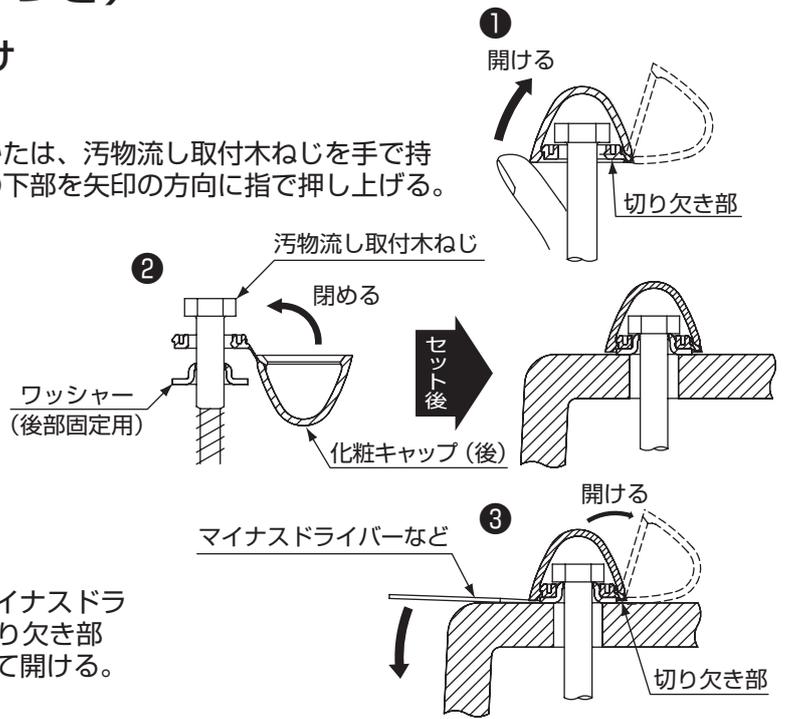
### ※化粧キャップ付きねじの取り付け

#### <取り付け>

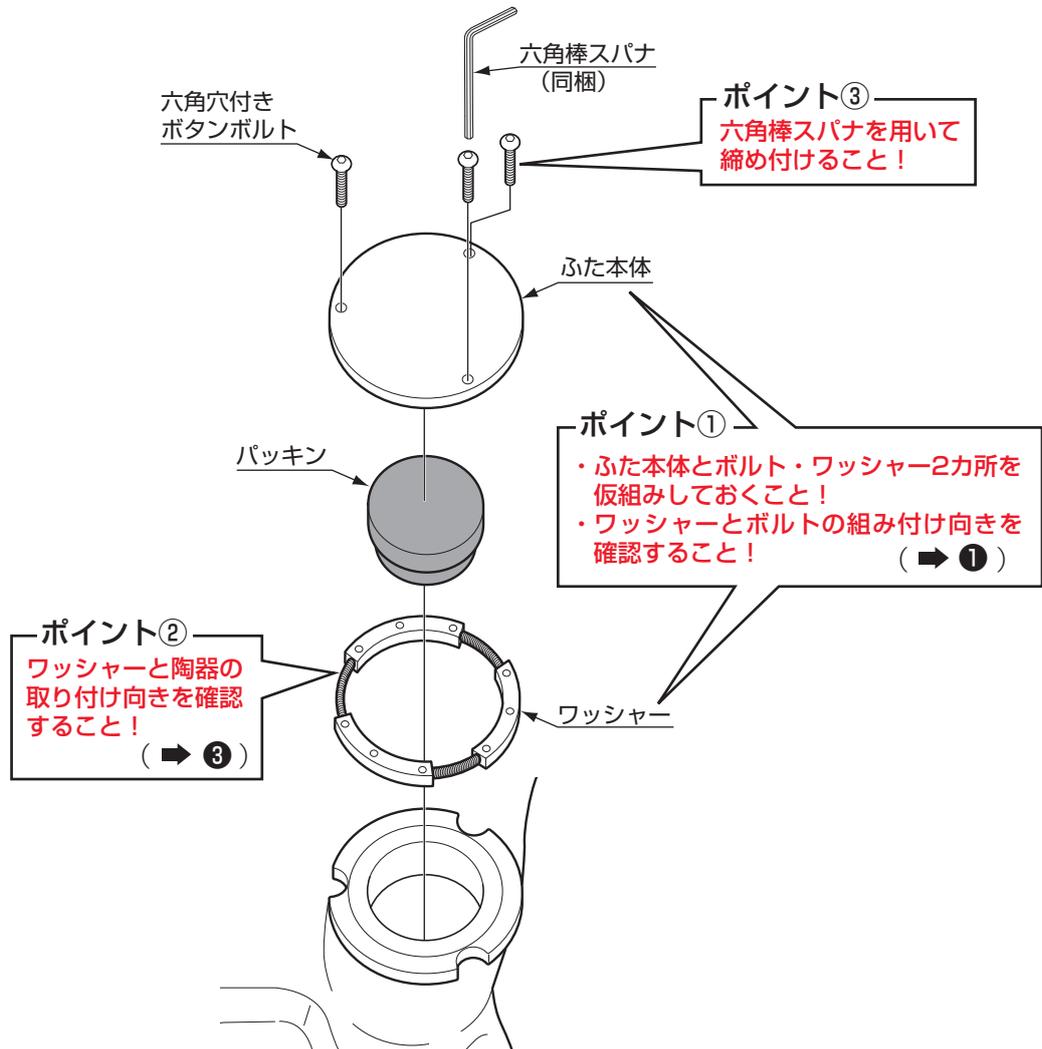
- ①最初に化粧キャップ (後) を開ける。開けかたは、汚物流し取付木ねじを手で持ち切り欠き部をよけて化粧キャップ (後) の下部を矢印の方向に指で押し上げる。
- ②汚物流し取付木ねじを取り付ける前に、化粧キャップ (後) とワッシャー (後部固定用) の順番、向きを確認し、間違えないよう取り付ける。
- ③汚物流し取付木ねじを取り付けたあとは、化粧キャップ (後) を矢印の方向に曲げて「パチッ」と音がするまで押し込む。

#### <取り外し>

施工後に汚物流し取付木ねじを外すときは、マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップ (後) の切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開ける。



## 9 掃除口の取り付け



## 9 掃除口の取り付け（つづき）

### ① 部品の仮組み

2カ所のみ仮組みする。

※残りの1カ所は④-②を参照してください。

### ⚠ 注意



必ず実行

ワッシャーは正しい向きに取り付ける  
反対向きに取り付けると陶器または部品が破  
損するおそれがあります。

### ② パッキンの取り付け

パッキンを掃除口に取り付ける。

### ③ ふた本体の取り付け

① 仮組みしていないワッシャーを手前の掃除口のフ  
ランジに掛け、ばねの伸びを利用して掃除口の後  
方2カ所の切り欠きa,bに ①で組み立てた本体を  
押し広げるように掃除口のフランジにかぶせて引  
っ掛ける。

② ワッシャーとふた本体で掃除口のフランジを挟み  
込むようにする。

### ④ ふた本体の仮締め

① ふた本体に手を添えて、汚物流し掃除口部と中  
心が合うようにふた本体の位置を調整しながら  
2本の六角穴付きボタンボルト(a,b)を締め付ける。

② c部に六角穴付きボタンボルト・ワッシャーを取  
り付け、仮締めする。

### ⚠ 注意



必ず実行

締め付けについては、汚物流し同梱の専用工  
具（六角棒スパナ）を右図の向きで使用す  
る  
誤った向きでの締め付けや、専用工具以外での締め付  
けは陶器または部品が破損するおそれがあります。

### ⑤ ふた本体の固定

固定の際は、専用工具（六角棒スパナ）を用いて、  
a, b, c を均等に締め付ける。

### ⑥ 固定の確認

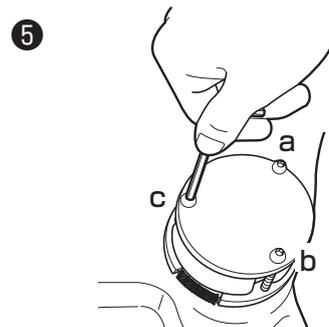
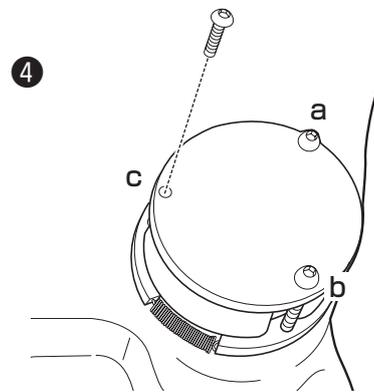
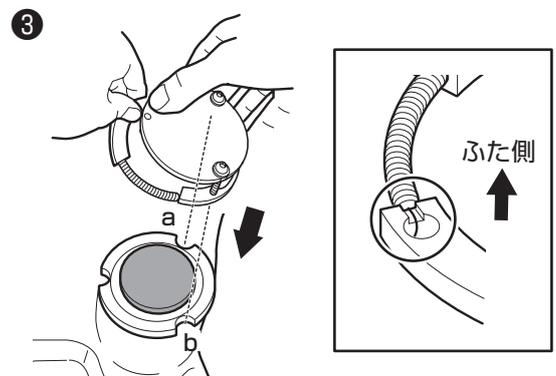
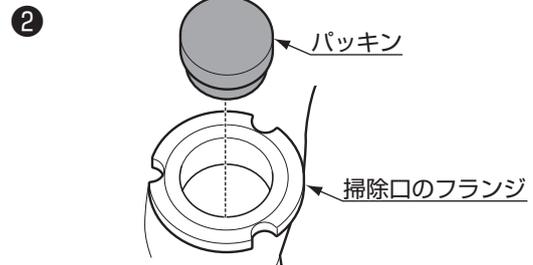
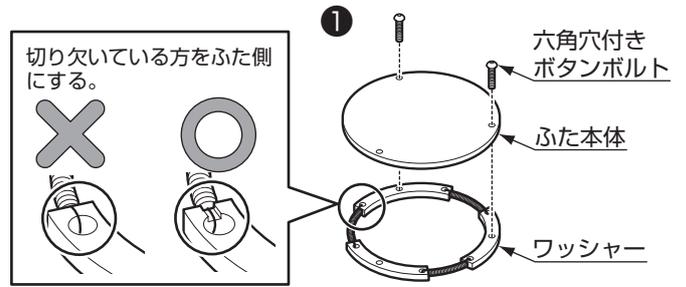
ふた本体が確実に固定されているか確認する。

### ⚠ 注意



必ず実行

必ずふたを確実に固定したことを確認し  
たうえで、洗浄を行うようにする  
水漏れにより家財に損害を与えるおそれがあります。  
万一水漏れする場合には締め増しをしてください。



給水装置の施工説明書に沿って給水装置を施工してください。

## 10 水勢調整

水勢調整注意書ラベルを参照し、適正な水勢に調整してください。

### ⚠ 注意

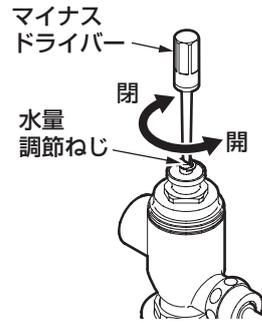
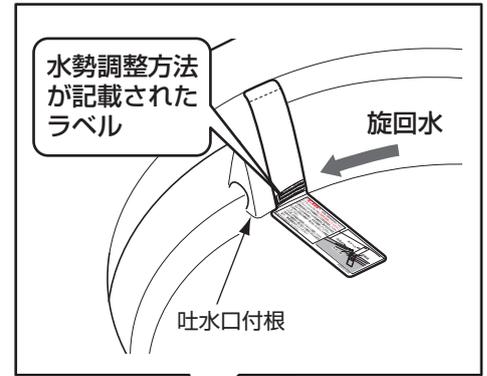


必ず実行

必ず2~3回流して洗浄水が飛び出していないことを確認する  
汚物流し洗浄中に洗浄水が飛び出している場合は止水栓を絞り再度調整を行う  
そのまま放置すると、洗浄水があふれて家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

〈低水圧現場で低水圧フラッシュバルブをご使用の場合〉  
止水栓全開でご使用ください。  
その後、洗浄水があふれないかご確認ください。

〈タンク式をご使用の場合〉  
水勢調整の必要はありません。



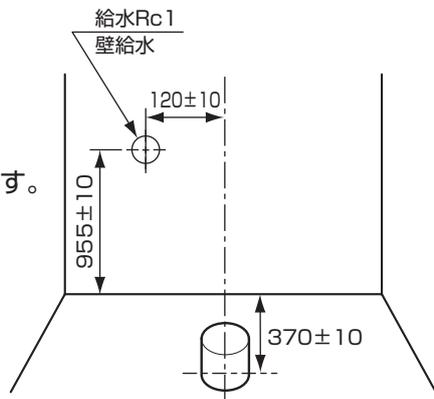
※施工後は必ずP.44「取り付け完了後の確認」を参照ください。

## 施工手順

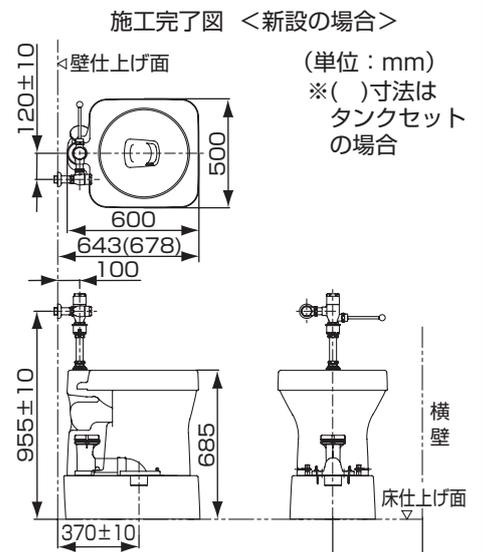


## 取り付け前のご注意

- 取り付けに必要なスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
- 給水圧力は  
最低必要水圧(流動時)：0.07MPa、  
最高水圧(静止時)：0.75MPaです。  
この圧力範囲でご使用ください。  
(フラッシュバルブ時)
- 施工前に給水取り出し位置および排水管位置が所定の位置であることを確認してください。
- 汚物流し中心から横壁まで350mm以上確保してください。  
(施工・掃除口メンテナンスのため)  
ただし、レバー式自在水栓を使用の場合はレバー操作のため、横壁から450mm以上確保してください。  
タッチスイッチユニット取り付け時は、500mm以上確保してください。



※補高台は別途発注となります。



## 取付方法

### 1 排水管の立ち上げ

(単位：mm)

排水管は壁から370mmの位置に高さ約230mmにて塩ビ管VP/VUφ100または鉛管φ100を立ち上げる。

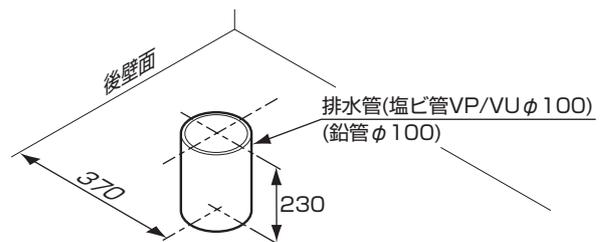
※排水管230mm立ち上げができない場合  
<別途発注する部材>

#### ①床フランジ

排水管が塩ビ管の場合：HP330P (1個)  
排水管が鉛管の場合：HP330W (1個)

#### ②ソケット：HP330F (1個)

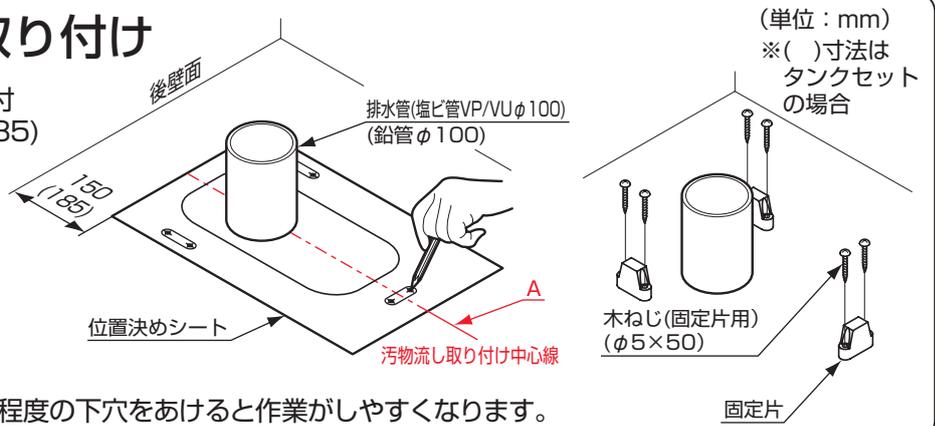
上記①②を別途発注し、現場配管を床面で仕上げたあと、①の排水フランジを取り付けのうえ、P.27からの施工手順に従ってください。



## 2 補高台用固定片の取り付け

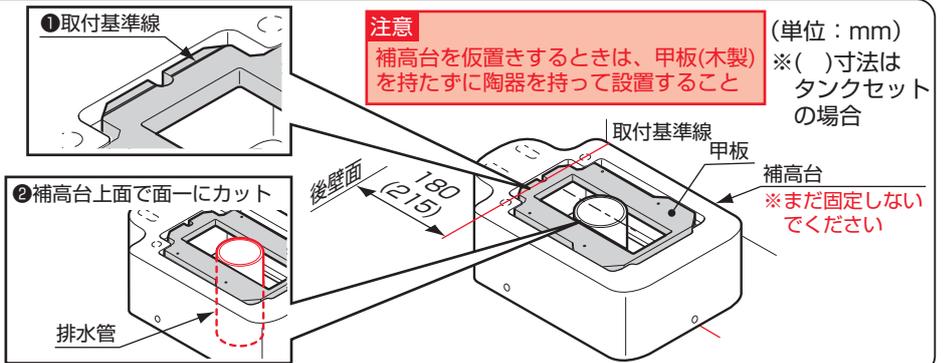
- 補高台同梱の位置決めシートの取付基準線を壁基準(幅木を除く)150(185)mmの位置に置く。
- 固定片取付位置(6カ所)をけがく。
- 鉛筆など(あとで消せるもの)で右図A(汚物流し取付中心線)に印をつける。
- 同梱の固定片を木ねじで床に固定する。

※固定片に木ねじをねじ込む前に、φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



## 3 補高台の仮置き

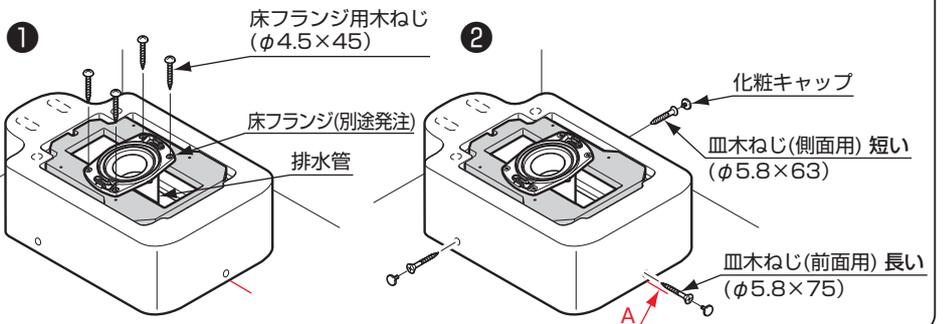
- 補高台上面に取り付けられた甲板にけがかれた取付基準線を壁から180(215)mmの位置に補高台を置く。  
※ここではまだ補高台を固定しないでください。
- 塩ビ排水管を床から230mm立ち上げていることを確認し、補高台上面で面一にカットする。



## 4 床フランジの取り付けと補高台の固定

- 排水管仕様(塩ビ管・鉛管)にあわせ、排水管とフランジを固定する。
- 補高台同梱の木ねじで補高台を3カ所固定する。  
※補高台前側を固定する際は、床にけがいた印(図A)と補高台前方の穴をあわせてください。  
※最後の締め増しは手締めにより行い汚物流しを割らないように注意してください。  
※木ねじは均等に締め付けること。  
※手順を守らないと正常に取り付かないおそれがあります。

床面に不陸がある場合、補高台下面にかい物をして補高台を固定したあと、すき間を白セメントなどで埋めて仕上げる。

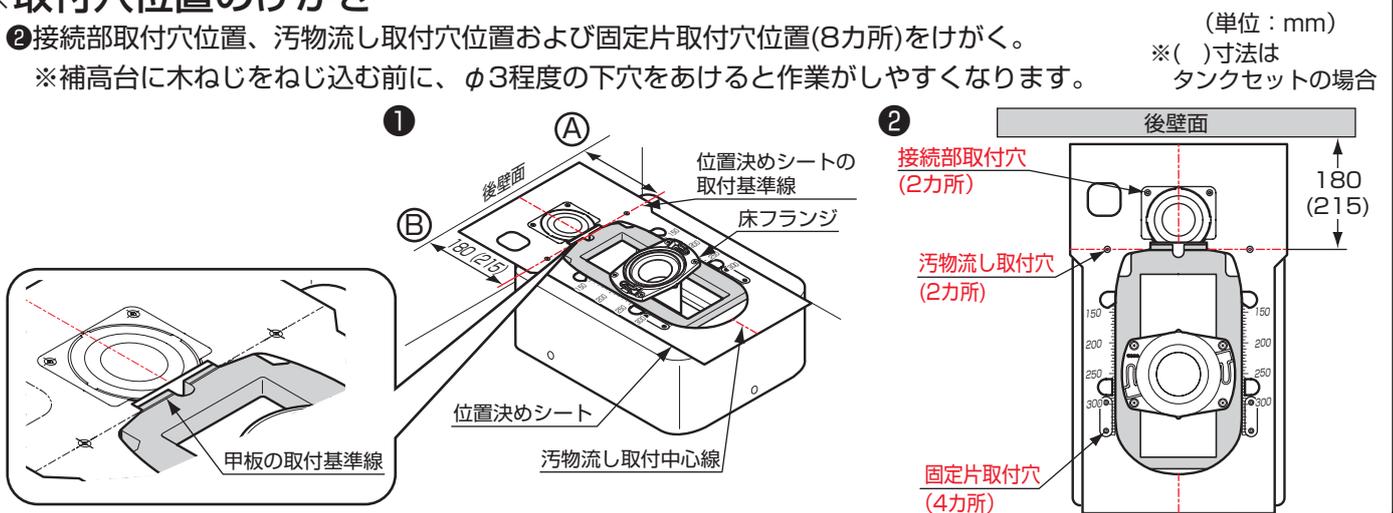


## 5 汚物流し位置決めシートの位置決め

- 後壁面から180(215)mmの位置に位置決めシートの取付基準線を甲板の基準線にあわせて置く。  
※取付基準線の位置決めは、A B 2カ所で行ってください。

### ※取付穴位置のけがき

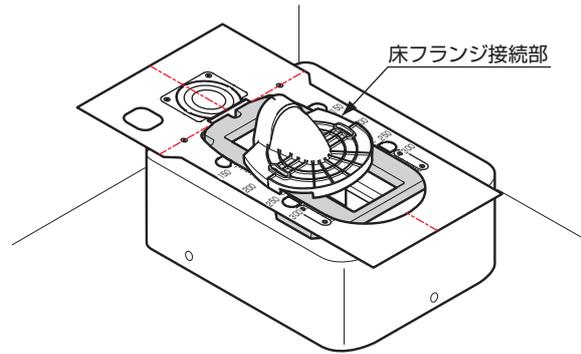
- 接続部取付穴位置、汚物流し取付穴位置および固定片取付穴位置(8カ所)をけがく。  
※補高台に木ねじをねじ込む前に、φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



## 6 床フランジ接続部の仮置き

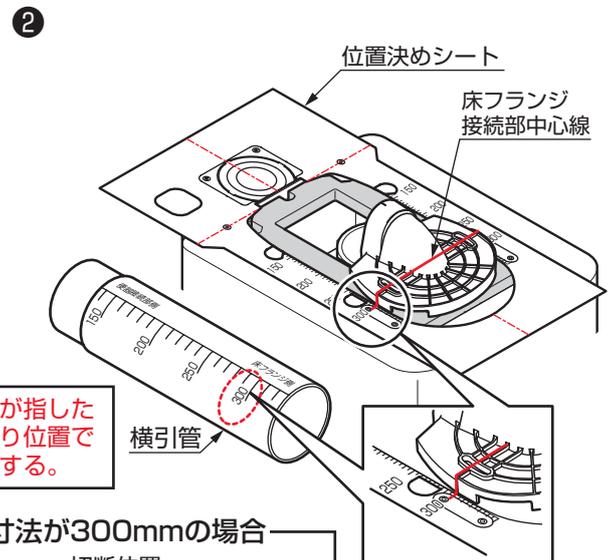
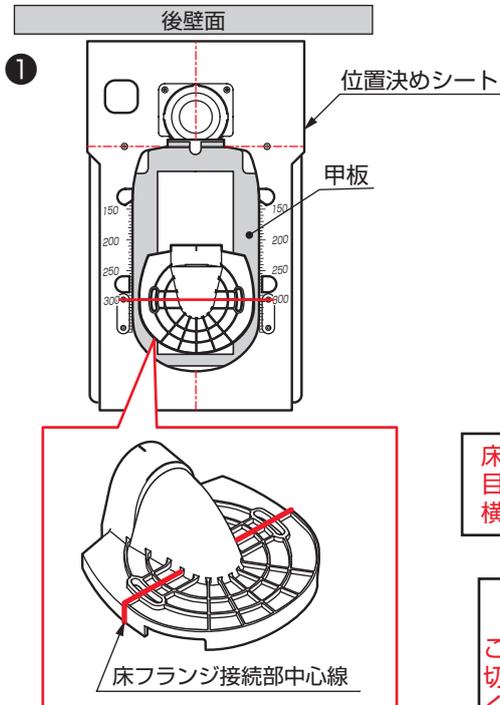
床フランジ接続部を床フランジの上に仮置きする。

※このときPシールは取り付け  
ないでください。



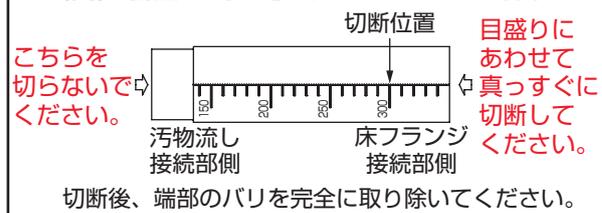
## 7 横引管の切断

- 床フランジ接続部の中心位置を位置決めシートと甲板にけがく。
- 床フランジ接続部中心線が指す、位置決めシートの目盛り位置と同じ目盛り位置で横引管を切断する。



床フランジ接続部中心線が指した目盛り位置と、同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する。

(例) 右図は測定寸法が300mmの場合



## 8 排水アジャスターの組み立て

### ⚠ 注意

横引管は最後まで、きちんと押し込む

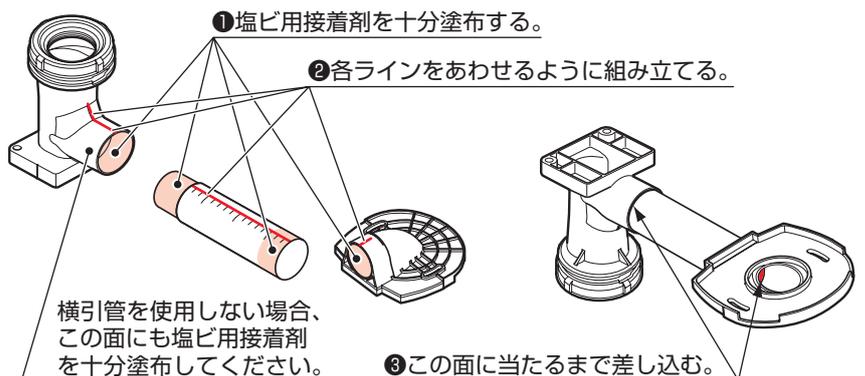
接着が不十分だと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

床面に対してガタツキがないように接着する

ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行



①塩ビ用接着剤を十分塗布する。

②各ラインをあわせるように組み立てる。

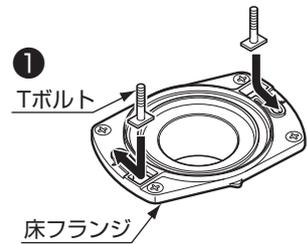
③この面に当たるまで差し込む。

横引管を使用しない場合、この面にも塩ビ用接着剤を十分塗布してください。

## 9 固定片と排水アジャスターの取り付け

※各床フランジ、Pシールの施工方法はP.45～P.47をご確認ください。  
正しい取付方法で取り付けしないと洗浄不良などの不具合や汚物流しが詰まり、汚水があふれたり水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

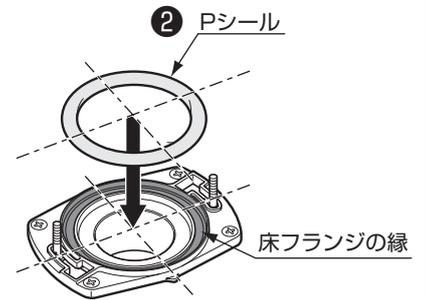
①床フランジにTボルト（2カ所）をセットする。



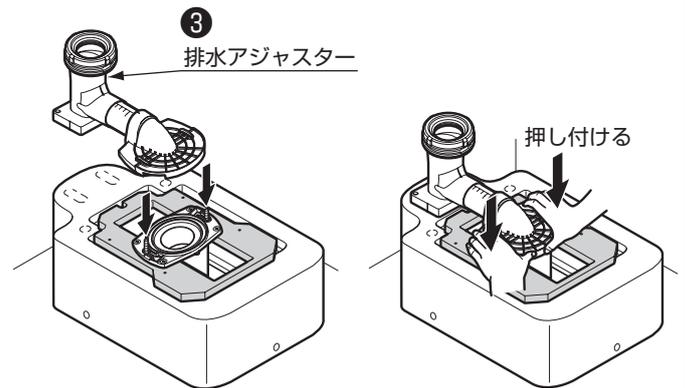
②Pシールを取り付ける。

※Pシールの円の中心が床フランジの円の中心にくるイメージで、床フランジの縁に均等に載るようにPシールを取り付けてください。

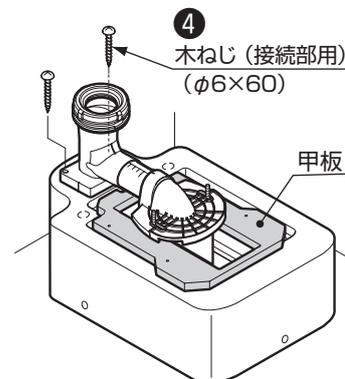
※Pシールの取り扱いについては、P.47を参照ください。



③排水アジャスターを床フランジに押し付ける。

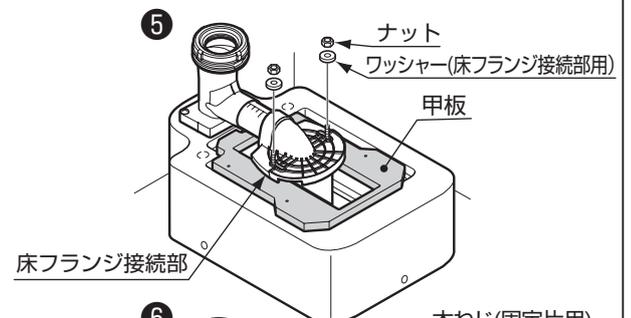


④接続部の取付穴(2カ所)に木ねじ(接続部用)を入れ、確実に締め付ける。

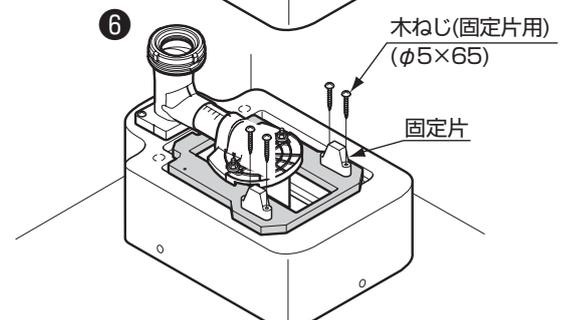


⑤床フランジ接続部を、ワッシャー(床フランジ接続部用)・ナットで床フランジに固定する。

※排水ソケットの床フランジ接続部取付基準線が甲板にけがいた線に合うように固定してください。



⑥固定片を所定の位置に、木ねじ(固定片用)で甲板に固定する。



# 10 汚物流しの取り付け

## ⚠️ 注意



必ず実行

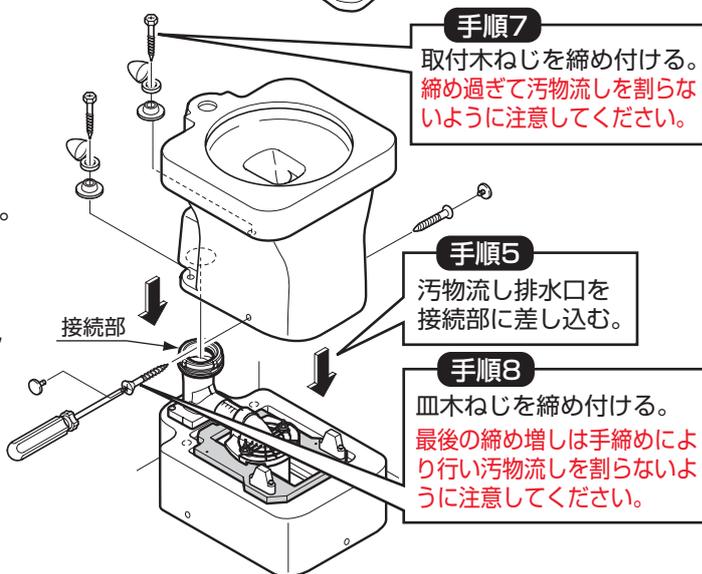
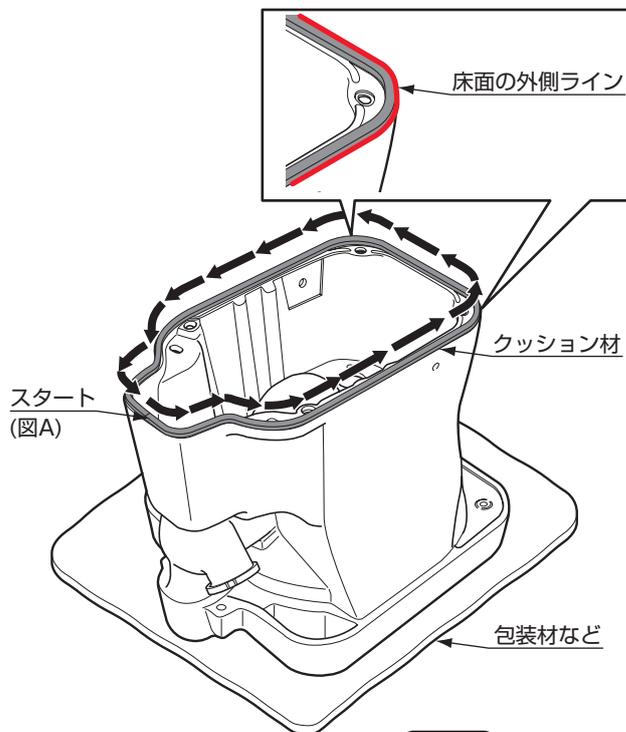
汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う

腰を痛めたり、器具を落として破損してけがをする原因になります。

汚物流し後ろ側の固定を必ず先に行う

横側の固定を先に行くと、汚物流しが移動し、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

- ① 汚物流しを上面に傷が付かないようにひっくり返す。  
※包装材などを使用してひっくり返してください。
- ② 乾いた布で汚物流しの床接地面を拭く。  
※床接地面がぬれていない状態にしてください。  
※床接地面にゴミが付いていない状態にしてください。
- ③ 補高台に同梱のクッション材を汚物流し後ろ側（図A）より上から押し付けながら貼り付ける。  
※床接地面の外側ラインに貼り付けてください。
- ④ 汚物流しをクッション材がはがれないように気を付けながらひっくり返す。
- ⑤ 汚物流し排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、汚物流し排水口を接続部に差し込む。
- ⑥ 汚物流しと補高台の左右の乗り幅を均等に合わせる。
- ⑦ 汚物流し後ろ側の取付穴（2カ所）に汚物流し取付木ねじ・化粧キャップ（後）・ワッシャー（後部固定用）を差し込み、汚物流しを補高台に固定する。
- ⑧ 汚物流し側面の取付穴に皿木ねじを差し込み、固定片に汚物流しを固定し、ねじの頭に化粧キャップ（横）を差し込む。



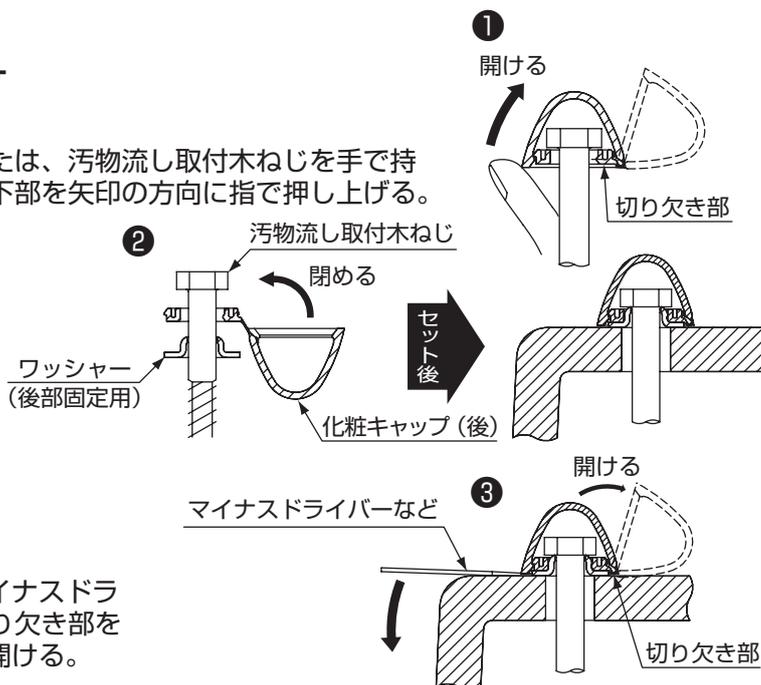
## ※化粧キャップ付きねじの取り付け

### <取り付け>

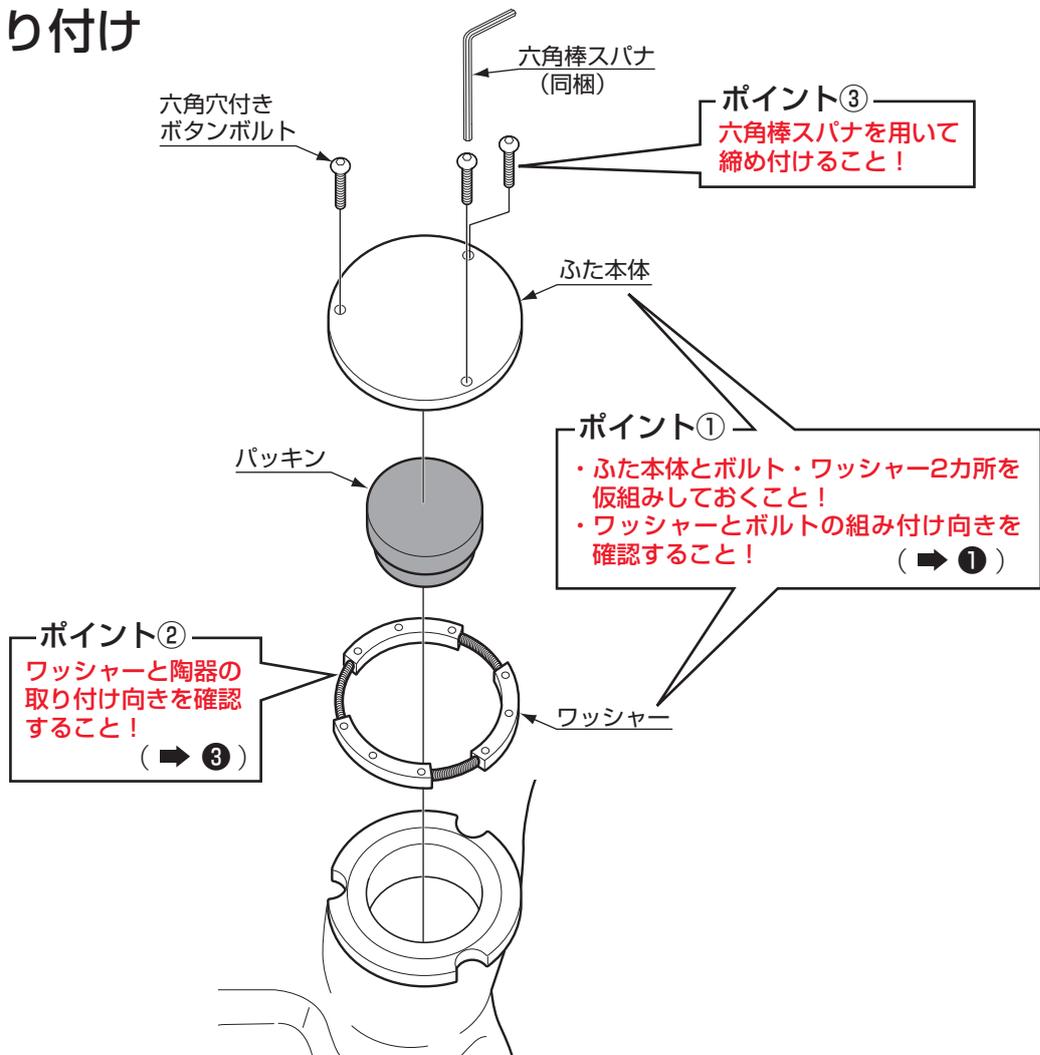
- ① 最初に化粧キャップ（後）を開ける。開けた時は、汚物流し取付木ねじを手で持ち切り欠き部をよけて化粧キャップ（後）の下部を矢印の方向に指で押し上げる。
- ② 汚物流し取付木ねじを取り付ける前に、化粧キャップ（後）とワッシャー（後部固定用）の順番、向きを確認し、間違えないよう取り付けます。
- ③ 汚物流し取付木ねじを取り付けたあとは、化粧キャップ（後）を矢印の方向に曲げて「パチッ」と音がするまで押し込む。

### <取り外し>

施工後に汚物流し取付木ねじを外すときは、マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップ（後）の切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開ける。



# 11 掃除口の取り付け



## ① 部品の仮組み

2カ所のみ仮組みする。

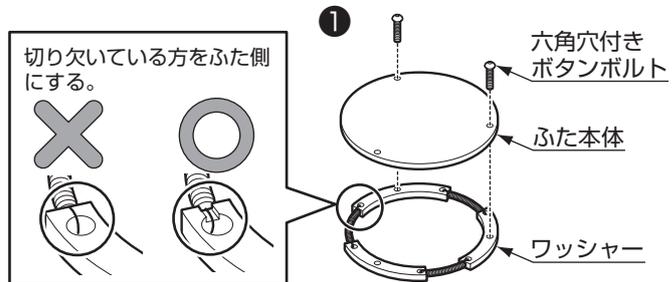
※残りの1カ所は④-②を参照してください。

### ⚠ 注意



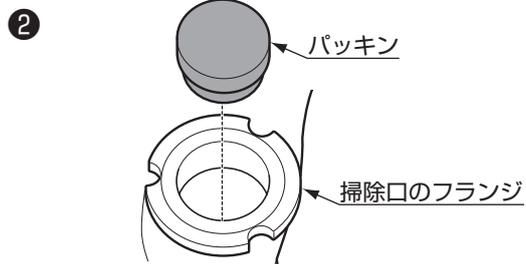
必ず実行

ワッシャーは正しい向きに取り付ける  
反対向きに取り付けると陶器または部品が破損するおそれがあります。



## ② パッキンの取り付け

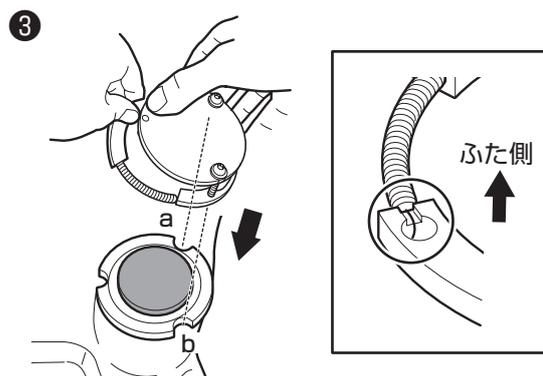
パッキンを掃除口に取り付ける。



## ③ ふた本体の取り付け

① 仮組みしていないワッシャーを手前の掃除口のフランジに掛け、ばねの伸びを利用して掃除口の後ろ2カ所の切り欠きa,bに ①で組み立てた本体を押し広げるように掃除口のフランジにかぶせて引っ掛ける。

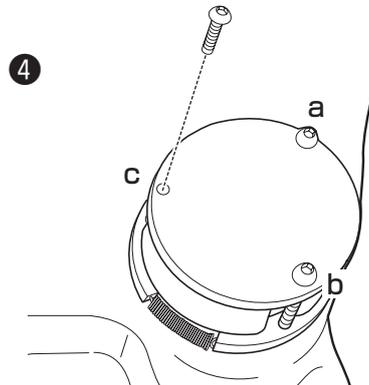
② ワッシャーとふた本体で掃除口のフランジを挟み込むようにする。



## 11 掃除口の取り付け（つづき）

### ④ふた本体の仮締め

- ①ふた本体に手を添えて、汚物流し掃除口部と中心が合うようにふた本体の位置を調整しながら2本の六角穴付きボタンボルト(a,b)を締め付ける。
- ②c部に六角穴付きボタンボルト・ワッシャーを取り付け、仮締めする。



### ⚠ 注意



必ず実行

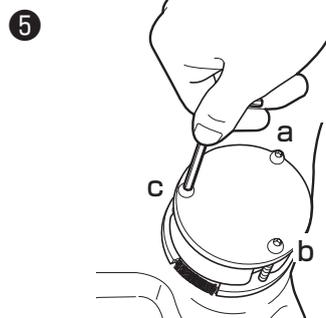
締め付けについては、汚物流し同梱の専用工具（六角棒スパナ）を右図の向きで使用する。誤った向きでの締め付けや、専用工具以外での締め付けは陶器または部品が破損するおそれがあります。

### ⑤ふた本体の固定

固定の際は、専用工具（六角棒スパナ）を用いて、a, b, c を均等に締め付ける。

### ⑥固定の確認

ふた本体が確実に固定されているか確認する。



### ⚠ 注意



必ず実行

必ずふたを確実に固定したことを確認したうえで、洗浄を行うようにする。水漏れにより家財に損害を与えるおそれがあります。万一水漏れする場合には締め増しをしてください。

給水装置の施工説明書に沿って給水装置を施工してください。

## 12 水勢調整

水勢調整注意書ラベルを参照し、適正な水勢に調整してください。

### ⚠ 注意

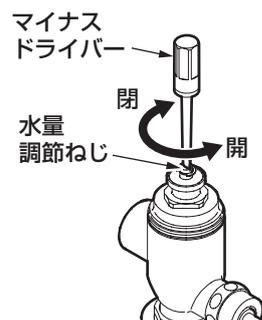
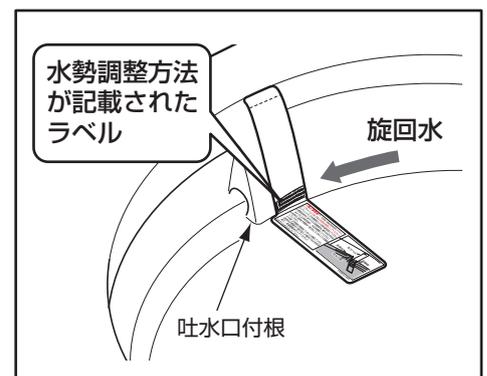


必ず実行

必ず2~3回流して洗浄水が飛び出していないことを確認する。汚物流し洗浄中に洗浄水が飛び出している場合は止水栓を絞り再度調整を行う。そのまま放置すると、洗浄水があふれて家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

〈低水圧現場で低水圧フラッシュバルブをご使用の場合〉  
止水栓全開でご使用ください。  
その後、洗浄水があふれないかご確認ください。

〈タンク式をご使用の場合〉  
水勢調整の必要はありません。



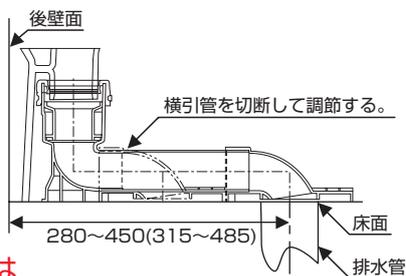
※施工後は必ずP.44「取り付け完了後の確認」を参照ください。

## 施工手順

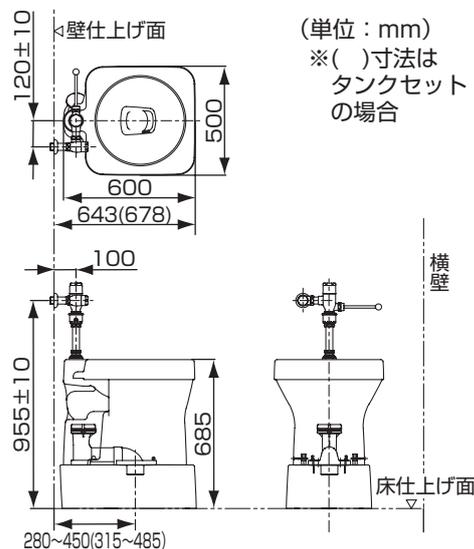


## 取り付け前のご注意

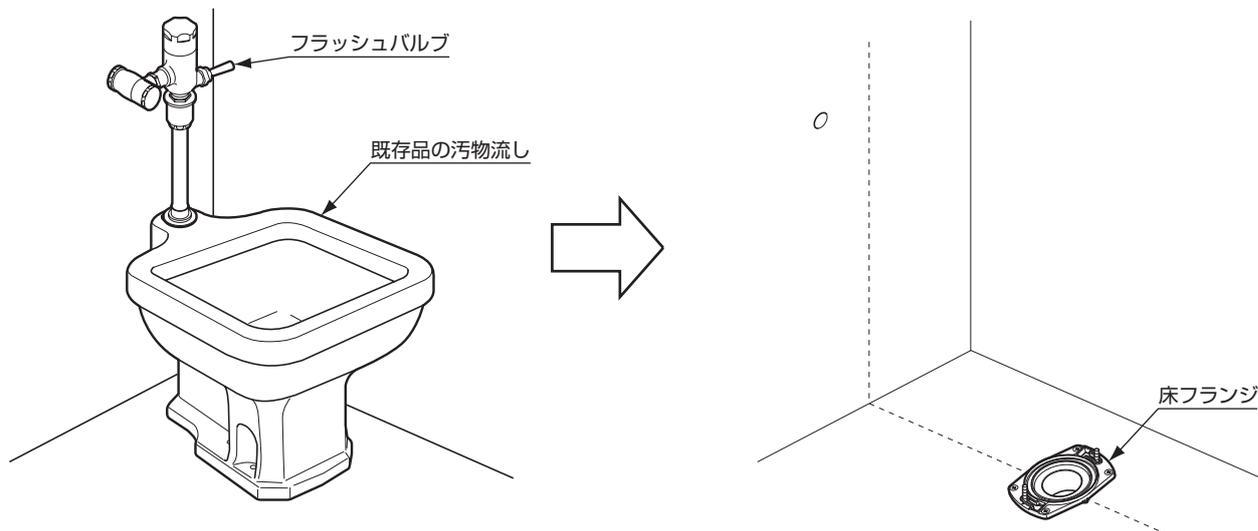
- 取り付けに必要なスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
- 給水圧力は  
最低必要水圧(流動時)：0.07MPa、  
最高水圧(静止時)：0.75MPaです。  
この圧力範囲でご使用ください。  
(フラッシュバルブ時)
- 施工前に給水取り出し位置および排水管位置が所定の位置であることを確認してください。
- 汚物流し中心から横壁まで350mm以上確保してください。  
(施工・掃除口メンテナンスのため)  
ただし、レバー式自在水栓を使用の場合はレバー操作のため、横壁から450mm以上確保してください。  
タッチスイッチユニット取り付け時は、500mm以上確保してください。



施工完了図 <リモデルの場合>

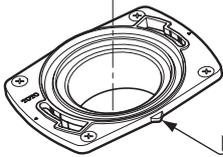
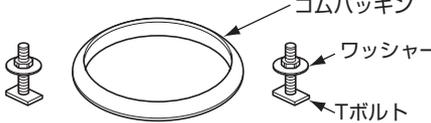
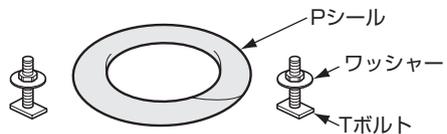
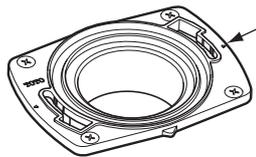
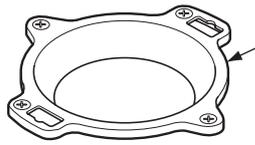
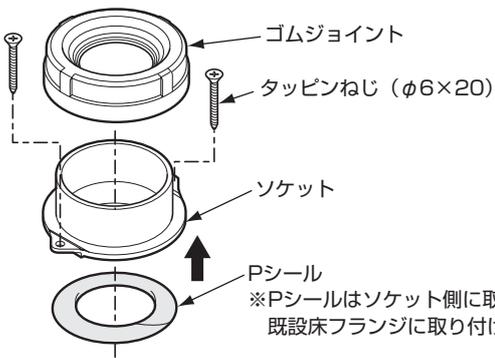
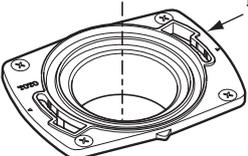
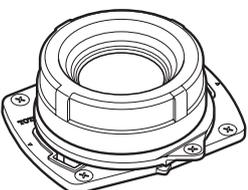
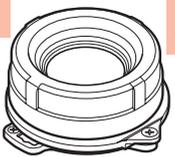


## 既存品汚物流しの撤去



# 取付方法

## 1 床フランジ部の処理

リモデルパターン		「汚物流しのみ」からのリモデル	
既設排水管の種類		塩ビ管	鉛管
既設排水管接続部の準備	①汚物流し撤去後の床フランジ状態	 <p>HP33</p>	 <p>TK33WR100</p>
	②破棄する接続部材 (不要部材)	 <p>ゴムパッキン ワッシャー Tボルト</p>	 <p>Pシール ワッシャー Tボルト</p>
	③必要部材	 <p>床フランジ (樹脂)</p> <p>※床に床フランジのみが取り付けられている状態になります。</p>	 <p>床フランジ (金属)</p> <p>※床に床フランジとPシールが取り付けられている状態ですので、Pシールをきれいに取り除いてください。</p>
新設排水管接続部の準備	④準備する接続部材および既設フランジへの接続	 <p>①床フランジにソケットを載せ、ソケットの取付穴位置をけがいてください。(このとき、Pシールはまだ取り付けないでください)                  ②ソケットにHP330F (別途発注) 同梱のゴムジョイントを取り付けてください。                  ③Pシールをソケットに取り付けてください。                  ④ソケットを床フランジに取り付け、タッピングねじで固定してください。</p> <p>ゴムジョイント タッピングねじ (φ6×20) ソケット Pシール ※Pシールはソケット側に取り付け後、既設床フランジに取り付けのこと。</p>	
		 <p>既設床フランジ (樹脂)</p>	 <p>既設床フランジ (金属)</p> <p>※リモデル前のPシールをきれいに取り除いておくこと                  ゴムジョイントはしっかり奥にはまり込むまで差し込んでください。</p>
	新設排水管接続部の準備完了		 <p>ソケットのねじは左右均等に締めてください。                  Pシールはソケットに取り付けてから床フランジへ取り付けてください。                  ※ゴムジョイントがしっかり差し込まれているか確認のこと</p>

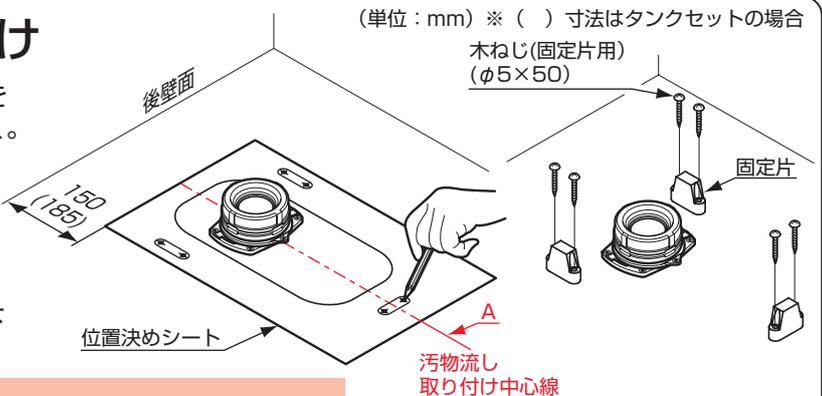
汚物流しと補高台の施工・リモデル

## 2 新設配管立ち上げの準備

リモデルパターン	「汚物流しのみ」からのリモデル	
既設排水管の種類	塩ビ管	鉛管
新設配管立ち上げの準備  立ち上げ配管の組み立て		
	<p>※切断後、端部のバリは完全に取り除いてください。            ※各接続とも、配管端面が、相手面に当たるまで押し込むこと。            ※接続手順は、①を接続後②を接続する。            ※各接続面に塩ビ用接着剤を十分塗布すること。</p>	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p style="text-align: center;"><b>⚠ 注意</b></p> <p><b>必ず実行</b> 床フランジ、アダプターは、最後まで、きちんと押し込む            接着が不十分だと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。</p> </div>

## 3 補高台用固定片の取り付け

- 補高台同梱の位置決めシートの取付基準線を壁基準(幅木を除く)150(185)mmの位置に置く。
  - 固定片取付位置(6カ所)をけがく。
  - 鉛筆など(あとで消せるもの)で右図A(汚物流し取り付け中心線)に印をつける。
  - 同梱の固定片を木ねじで床に固定する。
- ※固定片に木ねじをねじ込む前に、φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



### 【陶器入れ替えの場合の注意事項】

陶器破損などで陶器入れ替えの場合、下記2点に注意してください。

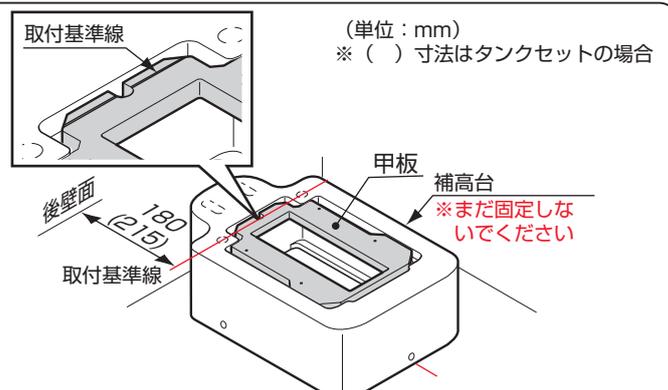
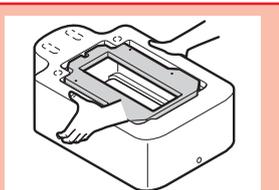
- 固定片に取り付けているねじにワッシャーがある場合
  - ・取り付けられているねじを流用または補修品ねじを注文して施工してください。
- 固定片に取り付けているねじにワッシャーがない場合
  - ・製品同梱のねじで施工してください。

## 4 補高台の仮置き

補高台上面に取り付けられた甲板にけがかれた取付基準線を壁から180(215)mmの位置に補高台を置く。  
 ※ここではまだ補高台を固定しないでください。

### 注意

補高台を仮置きするときは、甲板(木製)を持たずに陶器を持って設置すること



## 5 床フランジの取り付けと補高台の固定

① ②で準備した立ち上げ配管を補高台の上から床のゴムジョイントへきちんと差し込む。

※補高台位置の確認（左右方向）  
甲板開口部に対し、排水管がほぼ中央にくるように補高台を微調整のこと。

② 木ねじで4カ所を固定する。

③ 補高台側面の取付穴に皿木ねじ(側面用)を差し込み、固定片に補高台を固定し、ねじの頭に化粧キャップを差し込む。

④ 補高台前面の取付穴に皿木ねじ(前面用)を差し込み、固定片に補高台を固定し、ねじの頭に化粧キャップを差し込む。

※補高台前側を固定する際は、床にけがいた印(図A)と補高台前方の穴をあわせてください。

※手順を守らないと正常に取り付かないおそれがあります。

床面に不陸がある場合、補高台下面にかい物をして補高台を固定したあと、すき間を白セメントなどで埋めて仕上げる。

すき間は白セメントなどで埋めて仕上げる。

皿木ねじ(側面用)短い  
( $\phi 5.8 \times 63$ )  
化粧キャップ

皿木ねじ(前面用)長い  
( $\phi 5.8 \times 75$ )

### 手順1

立ち上げ配管を補高台の上からきちんと差し込む。

### 注意



立ち上げ配管はゴムジョイントにきちんと差し込む。差し込みが不十分だと、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

### 手順2

木ねじを締め付ける。  
木ねじは均等に締め付けること。

### 手順3

皿木ねじ(側面用)を締め付ける。  
左右均等に締め付けること。  
最後の締め増しは手締めにより行き補高台を割らないように注意してください。

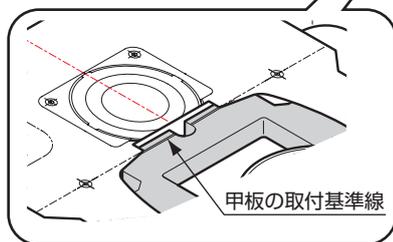
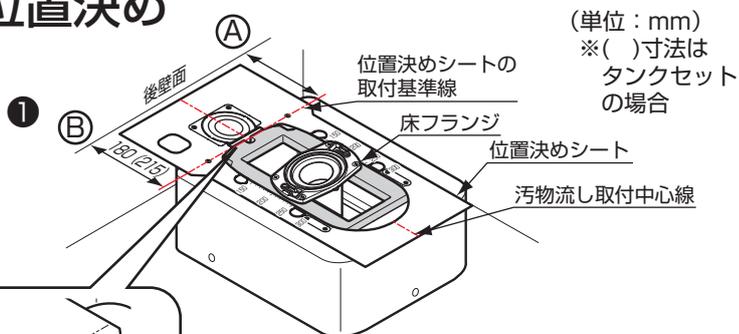
### 手順4

皿木ねじ(前面用)を締め付ける。  
最後の締め増しは手締めにより行き補高台を割らないように注意してください。

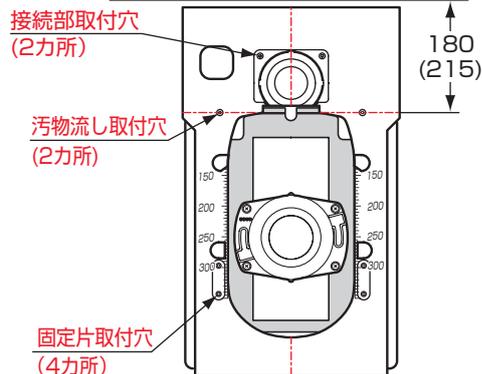
## 6 汚物流し位置決めシートの位置決め

① 後壁面から180(215)mmの位置に位置決めシートの取付基準線を甲板の基準線にあわせて置く。

※取付基準線の位置決めは、(A) (B) 2カ所で行ってください。



### 2



### ※取付穴位置のけがき

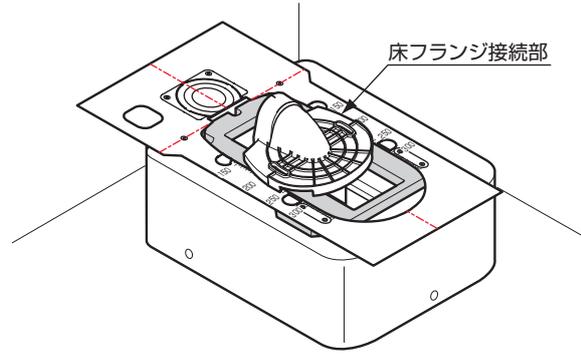
② 接続部取付穴位置、汚物流し取付穴位置および固定片取付穴位置(8カ所)をけがく。

※補高台に木ねじをねじ込む前に、 $\phi 3$ 程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。

## 7 床フランジ接続部の仮置き

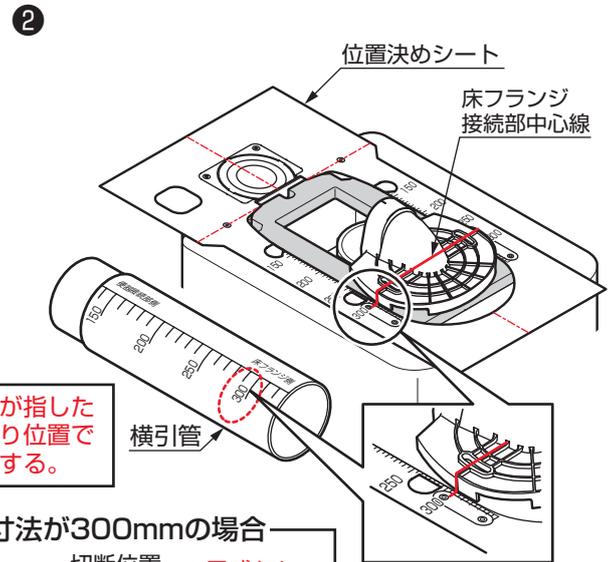
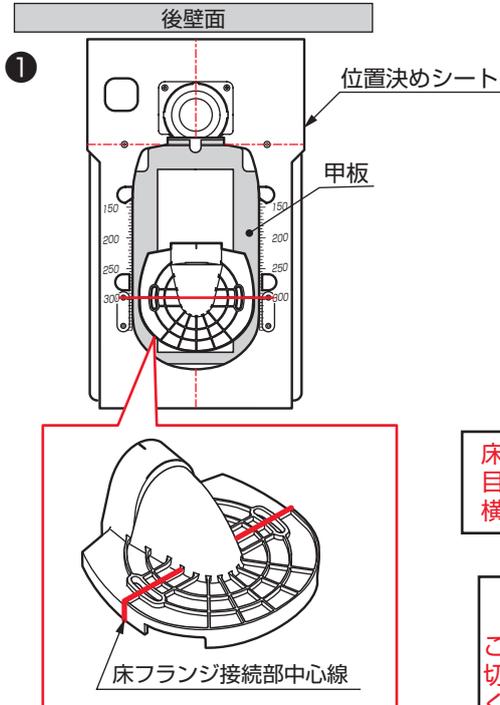
床フランジ接続部を床フランジの上に仮置きする。

※このときPシールは取り付け  
ないでください。



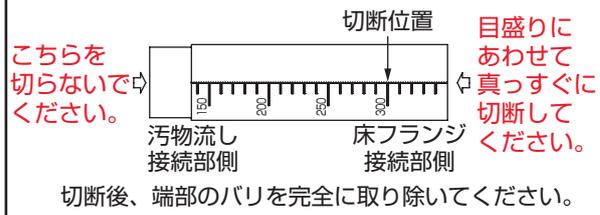
## 8 横引管の切断

- 床フランジ接続部の中心位置を位置決めシートと甲板にけがく。
- 床フランジ接続部中心線が指す、位置決めシートの目盛り位置と同じ目盛り位置で横引管を切断する。



床フランジ接続部中心線が指した目盛り位置と、同じ目盛り位置で横引管を真っすぐに切断する。

(例) 右図は測定寸法が300mmの場合



※目盛り位置が「135」にある場合、横引管は不要です。

## 9 排水アジャスターの組み立て

### ⚠ 注意

横引管は最後まで、きちんと押し込む

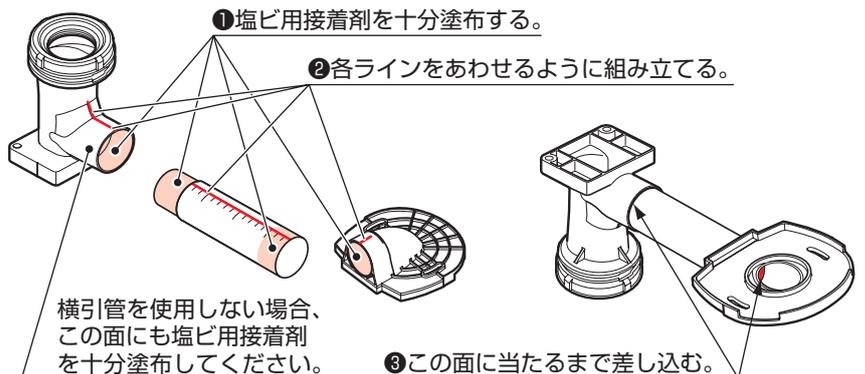
接着が不十分だと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

床面に対してガタツキがないように接着する

ガタツキが大きいと水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行



## 10 固定片と排水アジャスターの取り付け

※各床フランジ、Pシールの施工方法はP.45～P.47をご確認ください。  
正しい取付方法で取り付けしないと洗浄不良などの不具合や汚物流しが詰まり、汚水があふれたり水漏れして家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

①床フランジにTボルト（2カ所）をセットする。

②Pシールを取り付ける。

※Pシールの円の中心が床フランジの円の中心にくるイメージで、床フランジの縁に均等に載るようにPシールを取り付けてください。

※Pシールの取り扱いについては、P.47を参照ください。

③排水アジャスターを床フランジに押し付ける。

④接続部の取付穴(2カ所)に木ねじ(接続部用)を入れ、確実に締め付ける。

⑤床フランジ接続部を、ワッシャー(床フランジ接続部用)・ナットで床フランジに固定する。

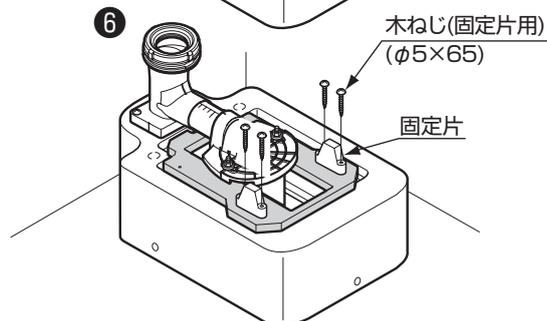
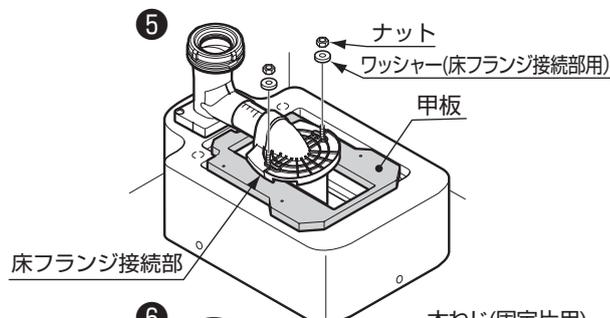
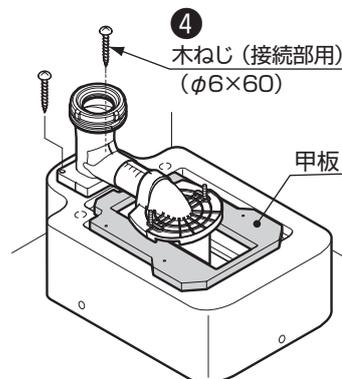
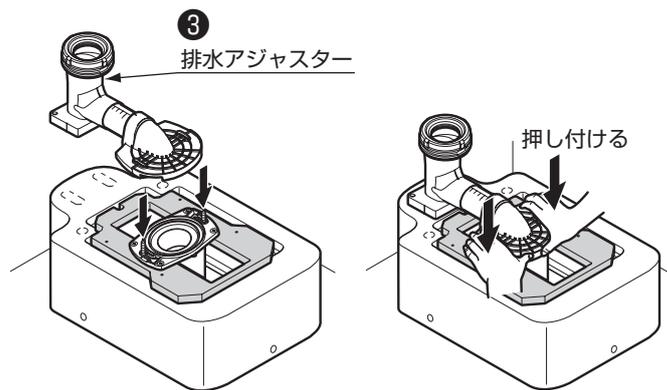
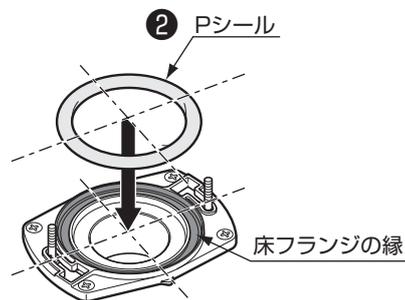
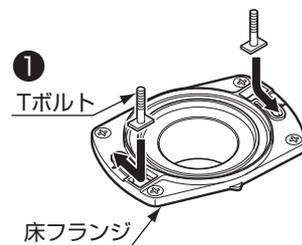
※排水ソケットの床フランジ接続部取付基準線が甲板にけがいた線に合うように固定してください。

⑥固定片を所定の位置に、木ねじ(固定片用)で甲板に固定する。

### 【陶器入れ替えの場合の注意事項】

陶器破損などで陶器入れ替えの場合、下記2点に注意してください。

- 固定片に取り付けているねじにワッシャーがある場合
  - ・取り付けられているねじを流用または補修品ねじを注文して施工してください。
- 固定片に取り付けているねじにワッシャーがない場合
  - ・製品同梱のねじで施工してください。



# 11 汚物流しの取り付け

## ⚠️ 注意



必ず実行

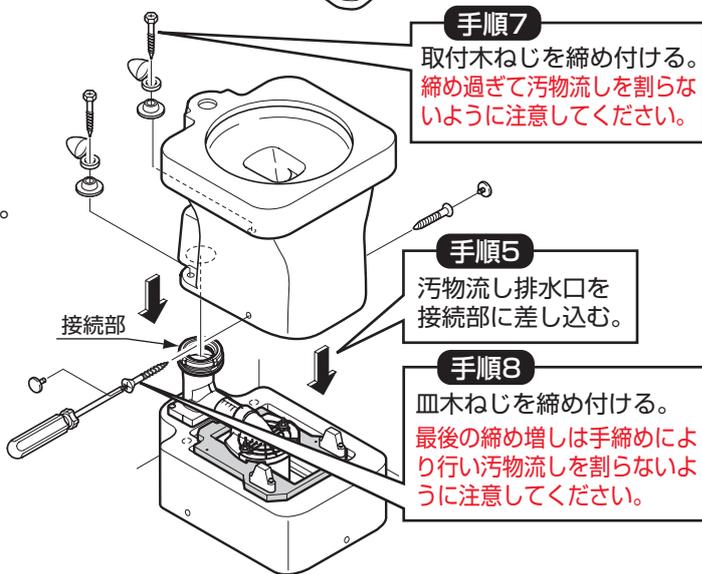
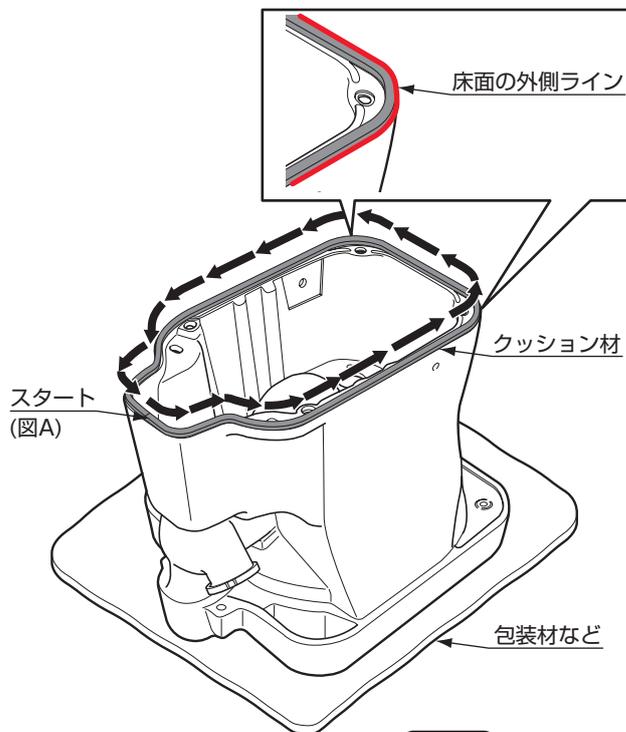
汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う

腰を痛めたり、器具を落として破損してけがをする原因になります。

汚物流し後ろ側の固定を必ず先に行う

横側の固定を先に行くと、汚物流しが移動し、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

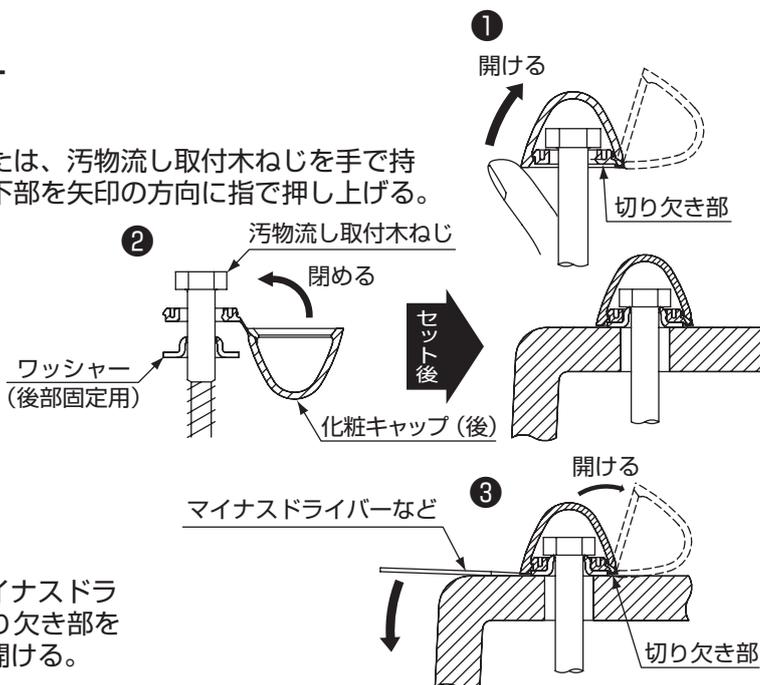
- ① 汚物流しを上面に傷が付かないようにひっくり返す。  
※包装材などを使用してひっくり返してください。
- ② 乾いた布で汚物流しの床接地面を拭く。  
※床接地面がぬれていない状態にしてください。  
※床接地面にゴミが付いていない状態にしてください。
- ③ 補高台に同梱のクッション材を汚物流し後ろ側（図A）より上から押し付けながら貼り付ける。  
※床接地面の外側ラインに貼り付けてください。
- ④ 汚物流しをクッション材がはがれないように気を付けながらひっくり返す。
- ⑤ 汚物流し排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、汚物流し排水口を接続部に差し込む。
- ⑥ 汚物流しと補高台の左右の乗り幅を均等に合わせる。
- ⑦ 汚物流し後ろ側の取付穴（2カ所）に汚物流し取付木ねじ・化粧キャップ（後）・ワッシャー（後部固定用）を差し込み、汚物流しを補高台に固定する。
- ⑧ 汚物流し側面の取付穴に皿木ねじを差し込み、固定片に汚物流しを固定し、ねじの頭に化粧キャップ（横）を差し込む。



## ※化粧キャップ付きねじの取り付け

### <取り付け>

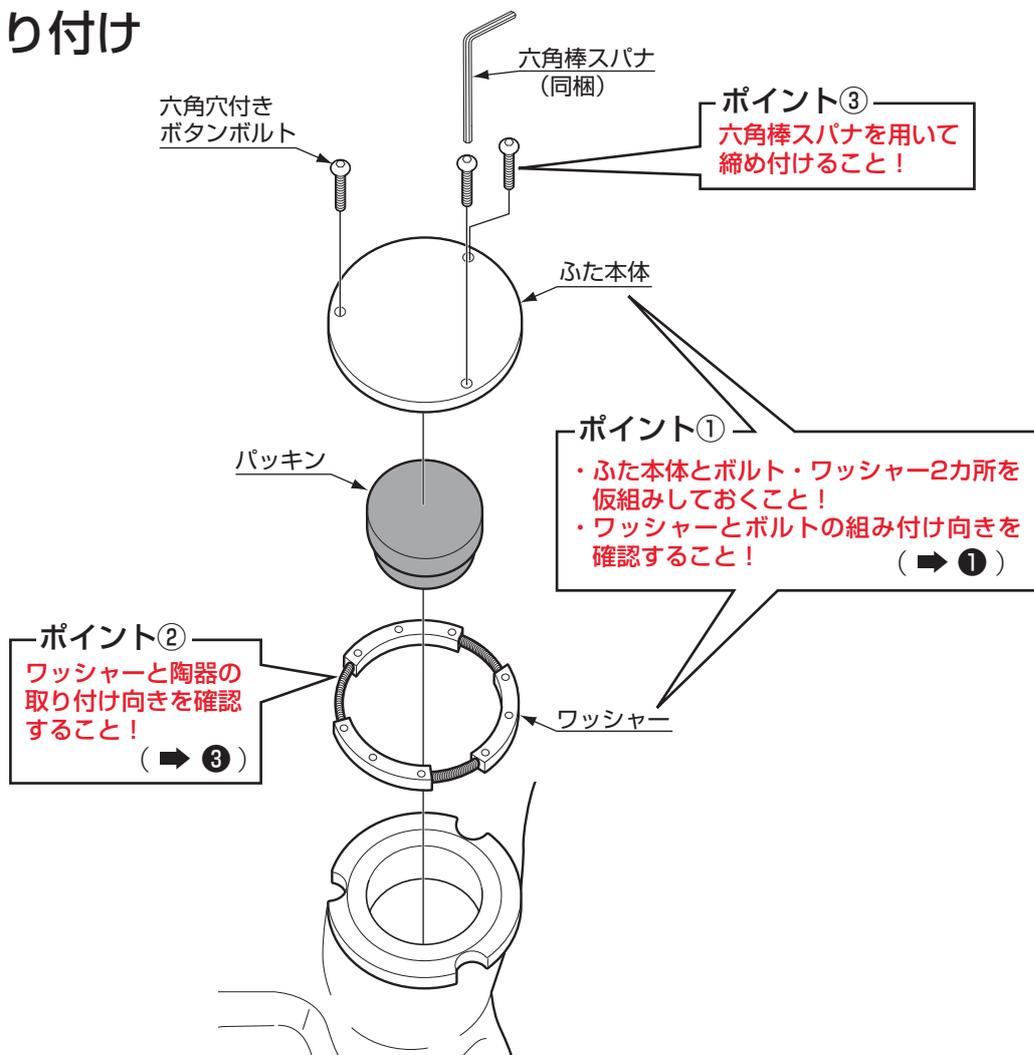
- ① 最初に化粧キャップ（後）を開ける。開けた時は、汚物流し取付木ねじを手で持ち切り欠き部をよけて化粧キャップ（後）の下部を矢印の方向に指で押し上げる。
- ② 汚物流し取付木ねじを取り付ける前に、化粧キャップ（後）とワッシャー（後部固定用）の順番、向きを確認し、間違えないよう取り付け。
- ③ 汚物流し取付木ねじを取り付けたあとは、化粧キャップ（後）を矢印の方向に曲げて「パチッ」と音がするまで押し込む。



### <取り外し>

施工後に汚物流し取付木ねじを外すときは、マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップ（後）の切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開ける。

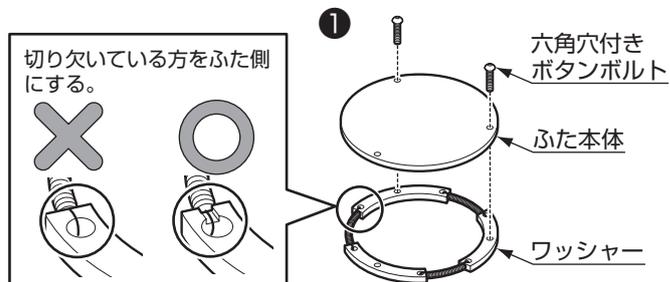
## 12 掃除口の取り付け



### ① 部品の仮組み

2カ所のみ仮組みする。

※残りの1カ所は④-②を参照してください。



### ⚠ 注意

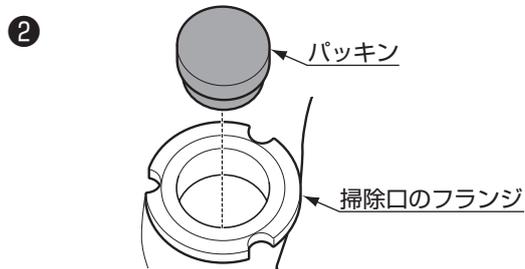


必ず実行

ワッシャーは正しい向きに取り付ける  
反対向きに取り付けると陶器または部品が破  
損するおそれがあります。

### ② パッキンの取り付け

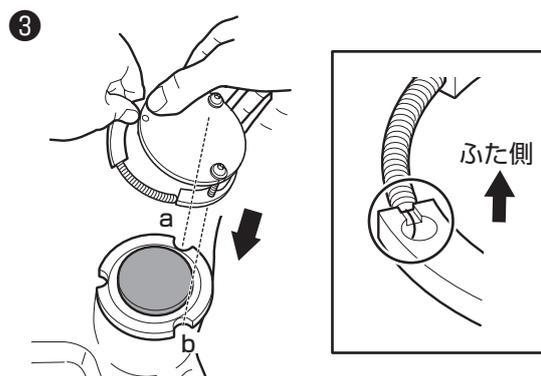
パッキンを掃除口に取り付ける。



### ③ ふた本体の取り付け

① 仮組みしていないワッシャーを手前の掃除口のフ  
ランジに掛け、ばねの伸びを利用して掃除口の後  
方2カ所の切り欠きa,bに ①で組み立てた本体を  
押し広げるように掃除口のフランジにかぶせて引  
っ掛ける。

② ワッシャーとふた本体で掃除口のフランジを挟み  
込むようにする。

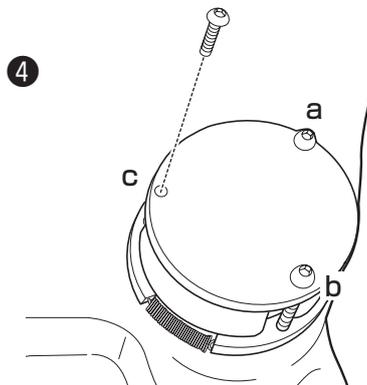


## 12 掃除口の取り付け（つづき）

### ④ ふた本体の仮締め

① ふた本体に手を添えて、汚物流し掃除口部と中心が合うようにふた本体の位置を調整しながら2本の六角穴付きボタネボルト（a,b）を締め付ける。

② c部に六角穴付きボタネボルト・ワッシャーを取り付け、仮締めする。



### ⚠ 注意



必ず実行

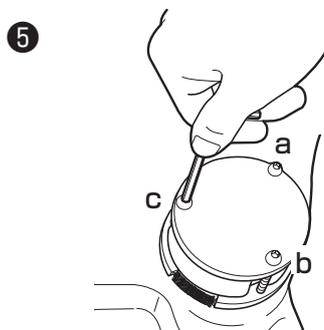
締め付けについては、汚物流し同梱の専用工具（六角棒スパナ）を右図の向きで使用する。誤った向きでの締め付けや、専用工具以外での締め付けは陶器または部品が破損するおそれがあります。

### ⑤ ふた本体の固定

固定の際は、専用工具（六角棒スパナ）を用いて、a, b, c を均等に締め付ける。

### ⑥ 固定の確認

ふた本体が確実に固定されているか確認する。



### ⚠ 注意



必ず実行

必ずふたを確実に固定したことを確認したうえで、洗浄を行うようにする。水漏れにより家財に損害を与えるおそれがあります。万一水漏れする場合には締め増しをしてください。

給水装置の施工説明書に沿って給水装置を施工してください。

## 13 水勢調整

水勢調整注意書ラベルを参照し、適正な水勢に調整してください。

### ⚠ 注意

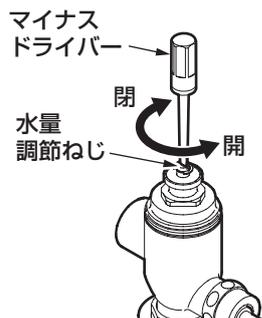
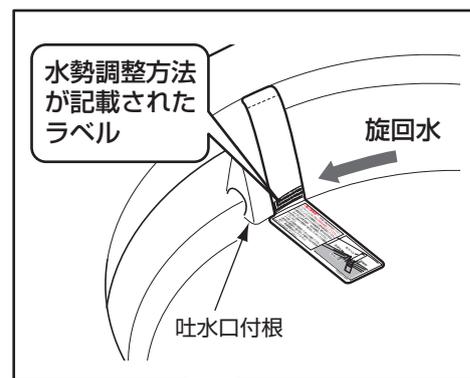


必ず実行

必ず2~3回流して洗浄水が飛び出していないことを確認する。汚物流し洗浄中に洗浄水が飛び出している場合は止水栓を絞りを再度調整を行う。そのまま放置すると、洗浄水があふれて家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

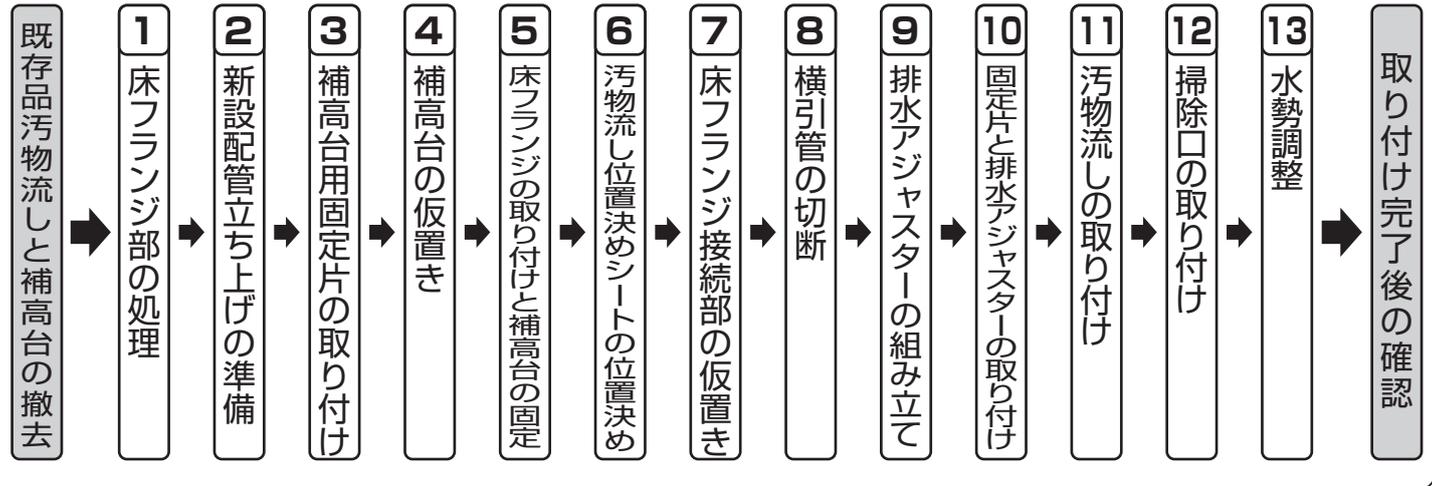
〈低水圧現場で低水圧フラッシュバルブをご使用の場合〉  
止水栓全開でご使用ください。  
その後、洗浄水があふれないかご確認ください。

〈タンク式をご使用の場合〉  
水勢調整の必要はありません。



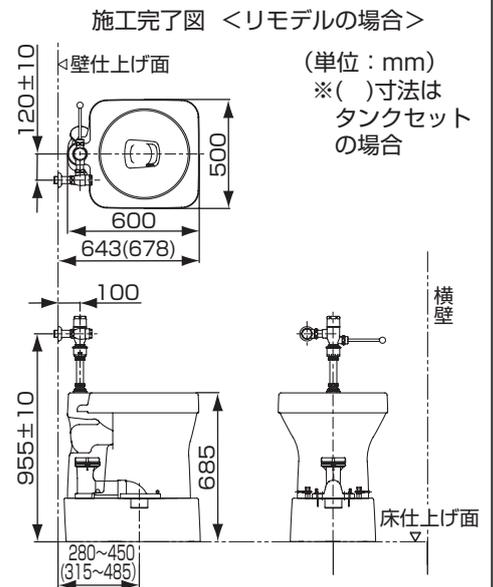
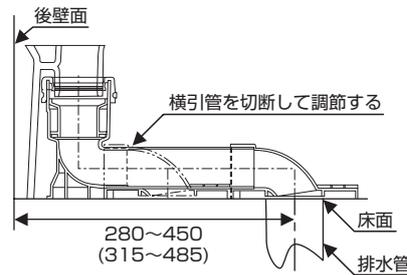
※施工後は必ずP.44「取り付け完了後の確認」を参照ください。

## 施工手順

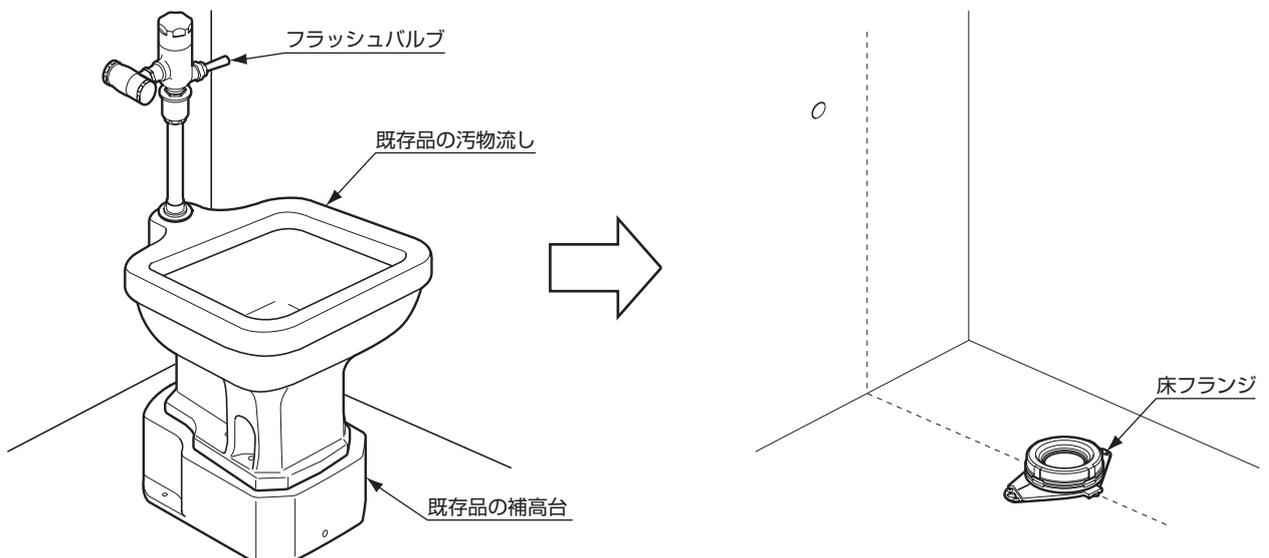


## 取り付け前のご注意

- 取り付けに必要なスペースを確保するとともに、ドアの開閉に支障がないことを確認してください。
- 給水圧力は  
最低必要水圧(流動時)：0.07MPa、  
最高水圧(静止時)：0.75MPaです。  
この圧力範囲でご使用ください。  
(フラッシュバルブ時)
- 施工前に給水取り出し位置および排水管位置が所定の位置であることを確認してください。
- 汚物流し中心から横壁まで350mm以上確保してください。  
(施工・掃除口メンテナンスのため)  
ただし、レバー式自在水栓を使用の場合はレバー操作のため、横壁から450mm以上確保してください。  
タッチスイッチユニット取り付け時は、500mm以上確保してください。



## 既存品汚物流しと補高台の撤去



# 取付方法

## 1 床フランジ部の処理

リモデルパターン		「汚物流しと補高台付き」からのリモデル	
既設排水管の種類		塩ビ管	鉛管
既設排水管接続部の準備	①汚物流し撤去後の床フランジ状態	<p>HP33F</p>	<p>TK33SW100 TK33SWR100</p>
	②破棄する接続部材 (不要部材)	<p>ゴムジョイント ※結束バンドを切断しゴムジョイントを取り外す</p>	<p>ゴムジョイント ソケット Pシール タッピングねじ</p>
	③必要部材	<p>床フランジ (樹脂)</p> <p>※床に床フランジのみが取り付けられている状態になります。</p>	<p>床フランジ (金属)</p> <p>※床に床フランジとPシールが取り付けられている状態ですので、Pシールをきれいに取除いてください。</p>
新設排水管接続部の準備	④準備する接続部材および既設フランジへの接続	<p>床フランジにHP330F (別途発注) 同梱のゴムジョイントを取り付けてください。</p> <p>ゴムジョイントはしっかり奥まではまり込むまで差し込んでください。</p> <p>ゴムジョイント</p>	<p>ゴムジョイント タッピングねじ (φ6×20) ソケット Pシール</p> <p>①床フランジにソケットを載せ、ソケットの取付穴位置をけがいてください。(このとき、Pシールはまだ取り付けしないでください) ②ソケットにHP330F (別途発注) 同梱のゴムジョイントを取り付けてください。 ③Pシールをソケットに取り付けてください。 ④ソケットを床フランジに取り付け、タッピングねじで固定してください。</p> <p>※Pシールはソケット側に取り付け後、既設床フランジに取り付けのこと。</p>
		<p>既設床フランジ (樹脂)</p>	<p>既設床フランジ (金属)</p> <p>※リモデル前のPシールをきれいに取除いておくこと ゴムジョイントはしっかり奥にはまり込むまで差し込んでください。</p>
	新設排水管接続部の準備完了		<p>ソケットのねじは左右均等に締めてください。</p> <p>Pシールはソケットに取り付けてから床フランジへ取り付けてください。</p> <p>※ゴムジョイントがしっかり差し込まれているか確認のこと</p>

## 2 新設配管立ち上げの準備

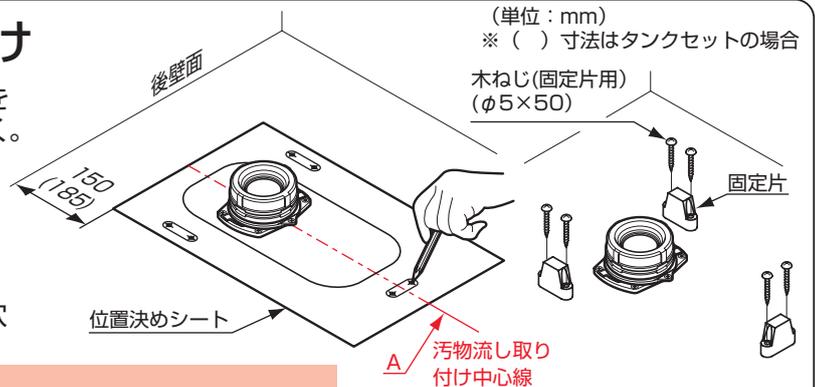
リモデルパターン	「汚物流しと補高台付き」からのリモデル	
既設排水管の種類	塩ビ管	鉛管
新設配管立ち上げの準備  立ち上げ配管の組み立て		
		<p>※切断後、端部のバリは完全に取り除いてください。            ※各接続面に塩ビ用接着剤を十分塗布すること。            ※接続手順は、①を接続後②を接続する。            ※各接続とも、配管端面が、相手面に当たるまで押し込むこと。</p>

**⚠ 注意**

**必ず実行** 床フランジ、アダプターは、最後まで、きちんと押し込む  
 接着が不十分だと水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

## 3 補高台用固定片の取り付け

- 補高台同梱の位置決めシートの取付基準線を壁基準(幅木を除く)150(185)mmの位置に置く。
- 固定片取付位置(6カ所)をけがく。
- 鉛筆など(あとで消せるもの)で右図A(汚物流し取り付け中心線)に印をつける。
- 同梱の固定片を木ねじで床に固定する。  
 ※固定片に木ねじをねじ込む前に、φ3程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。



### 【陶器入れ替えの場合の注意事項】

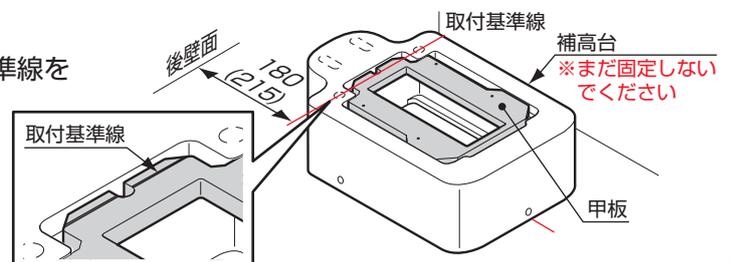
陶器破損などで陶器入れ替えの場合、下記2点に注意してください。

- 固定片に取り付けているねじにワッシャーがある場合
  - ・ 取り付けられているねじを流用または補修品ねじを注文して施工してください。
- 固定片に取り付けているねじにワッシャーがない場合
  - ・ 製品同梱のねじで施工してください。

## 4 補高台の仮置き

補高台上面に取り付けられた甲板にけがかれた取付基準線を壁から180(215)mmの位置に補高台を置く。  
 ※ここではまだ補高台を固定しないでください。

(単位: mm) ※ ( ) 寸法はタンクセットの場合



### 注意

補高台を仮置きするときは、甲板(木製)を持たずに陶器を持って設置すること

## 5 床フランジの取り付けと補高台の固定

① ②で準備した立ち上げ配管を補高台の上から床のゴムジョイントへきちんと差し込む。

※補高台位置の確認（左右方向）  
甲板開口部に対し、排水管がほぼ中央にくるように補高台を微調整のこと。

② 木ねじで4カ所を固定する。

③ 補高台側面の取付穴に皿木ねじ(側面用)を差し込み、固定片に補高台を固定し、ねじの頭に化粧キャップを差し込む。

④ 補高台前面の取付穴に皿木ねじ(前面用)を差し込み、固定片に補高台を固定し、ねじの頭に化粧キャップを差し込む。

※補高台前側を固定する際は、床にけがいた印(図A)と補高台前方の穴をあわせてください。

※手順を守らないと正常に取り付かないおそれがあります。

床面に不陸がある場合、補高台下面にかい物をして補高台を固定したあと、すき間を白セメントなどで埋めて仕上げる。

すき間は白セメントなどで埋めて仕上げる。

皿木ねじ(側面用)短い  
( $\phi 5.8 \times 63$ )  
化粧キャップ

皿木ねじ(前面用)長い  
( $\phi 5.8 \times 75$ )

### 手順1

立ち上げ配管を補高台の上からきちんと差し込む。

### 注意



立ち上げ配管はゴムジョイントにきちんと差し込む。差し込みが不十分だと、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

### 手順2

木ねじを締め付ける。  
木ねじは均等に締め付けること。

### 手順3

皿木ねじ(側面用)を締め付ける。  
左右均等に締め付けること。  
最後の締め増しは手締めにより行き補高台を割らないように注意してください。

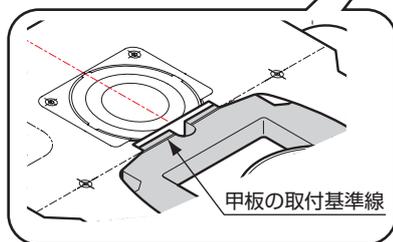
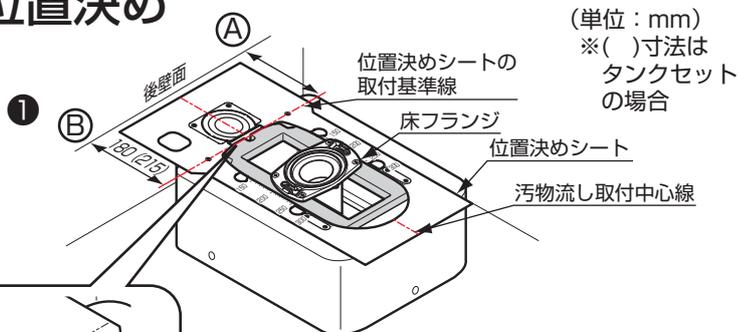
### 手順4

皿木ねじ(前面用)を締め付ける。  
最後の締め増しは手締めにより行き補高台を割らないように注意してください。

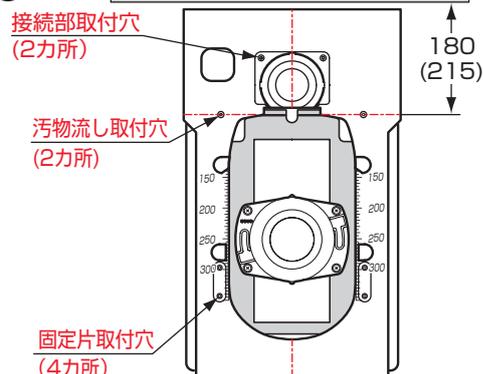
## 6 汚物流し位置決めシートの位置決め

① 後壁面から180(215)mmの位置に位置決めシートの取付基準線を甲板の基準線にあわせて置く。

※取付基準線の位置決めは、(A) (B) 2カ所で行ってください。



②



### ※取付穴位置のけがき

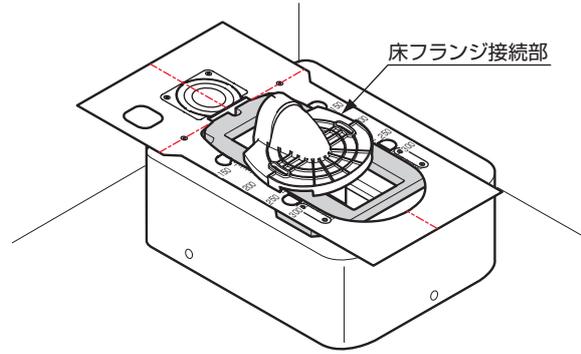
② 接続部取付穴位置、汚物流し取付穴位置および固定片取付穴位置(8カ所)をけがく。

※補高台に木ねじをねじ込む前に、 $\phi 3$ 程度の下穴をあけると作業がしやすくなります。

## 7 床フランジ接続部の仮置き

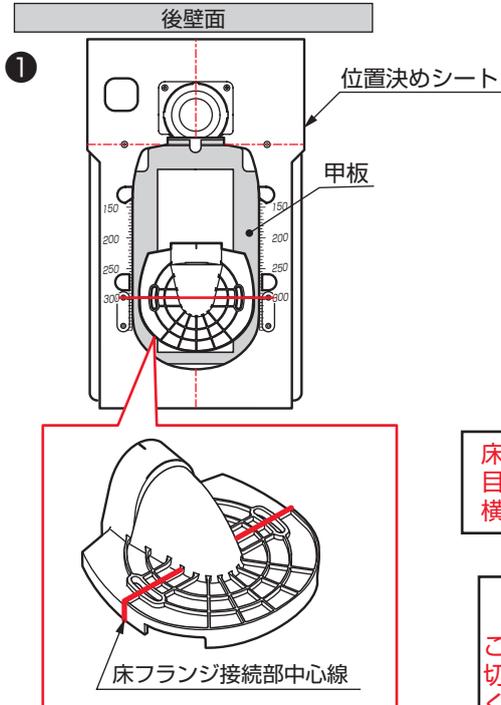
床フランジ接続部を床フランジの上に仮置きする。

※このときPシールは取り付け  
ないでください。

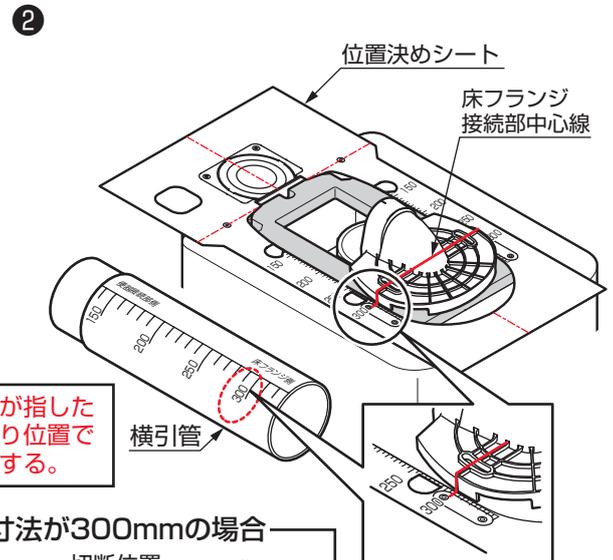


## 8 横引管の切断

- 床フランジ接続部の中心位置を位置決めシートと甲板にけがく。
- 床フランジ接続部中心線が指す、位置決めシートの目盛り位置と同じ目盛り位置で横引管を切断する。

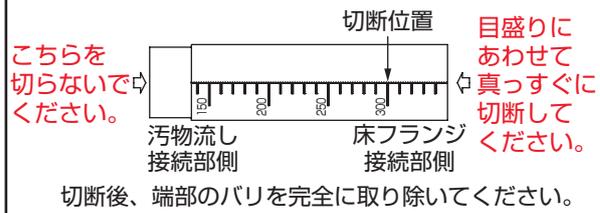


※目盛り位置が「135」にある場合、  
横引管は不要です。



床フランジ接続部中心線が指した  
目盛り位置と、同じ目盛り位置で  
横引管を真っすぐに切断する。

(例) 右図は測定寸法が300mmの場合



## 9 排水アジャスターの組み立て

### ⚠ 注意

横引管は最後まで、きちんと  
押し込む

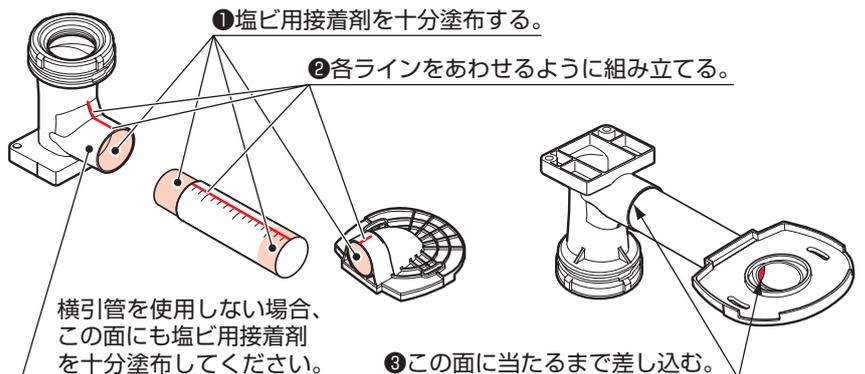
接着が不十分だと水漏れして家財などを  
ぬらす財産損害発生のおそれがあります。

床面に対してガタツキがない  
ように接着する

ガタツキが大きいと水漏れして家財などを  
ぬらす財産損害発生のおそれがあります。



必ず実行



## 10 固定片と排水アジャスターの取り付け

※各床フランジ、Pシールの施工方法はP.45～P.47をご確認ください。  
正しい取付方法で取り付けしないと洗浄不良などの不具合や汚物流し  
が詰まり、汚水があふれたり水漏れして家財などをぬらす財産損  
害発生のおそれがあります。

①床フランジにTボルト（2カ所）をセットする。

②Pシールを取り付ける。

※Pシールの円の中心が床フランジの円の中心にくるイメ  
ージで、床フランジの縁に均等に載るようにPシールを  
取り付けてください。

※Pシールの取り扱いについては、P.47を参照ください。

③排水アジャスターを床フランジに押し付ける。

④接続部の取付穴(2カ所)に木ねじ(接続部用)を入れ、確実  
に締め付ける。

⑤床フランジ接続部を、ワッシャー(床フランジ接続部用)・  
ナットで床フランジに固定する。

※排水ソケットの床フランジ接続部取付基準線が甲板に  
けがいた線に合うように固定してください。

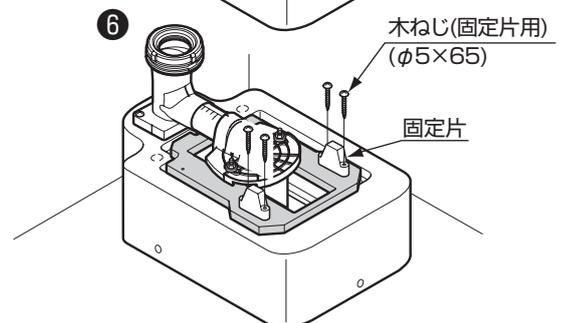
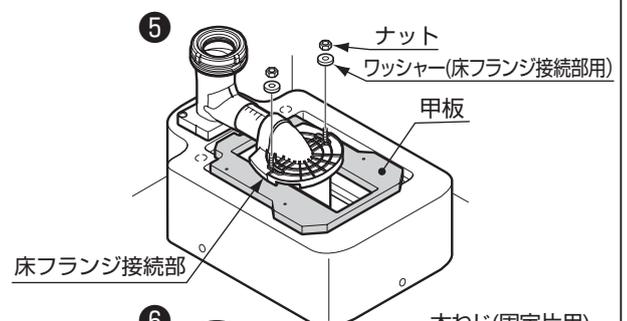
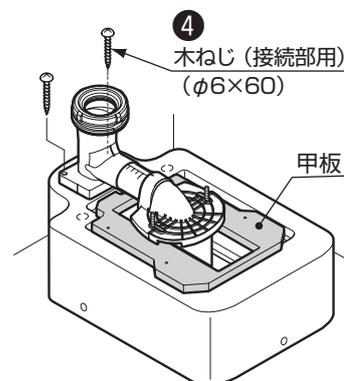
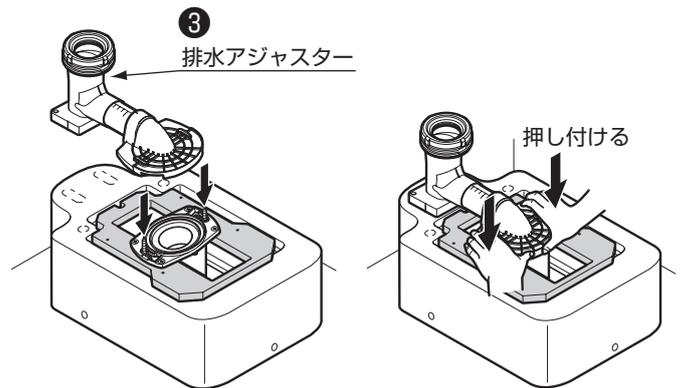
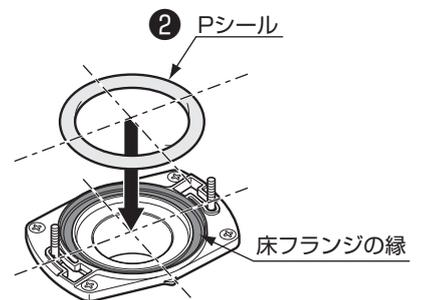
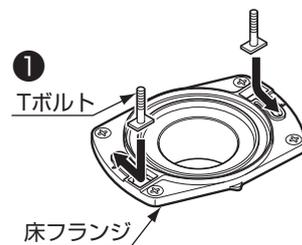
⑥固定片を所定の位置に、木ねじ(固定片用)で甲板に固定  
する。

### 【陶器入れ替えの場合の注意事項】

陶器破損などで陶器入れ替えの場合、下記2点に注意し  
てください。

■固定片に取り付けているねじにワッシャーがある場合  
・取り付けられているねじを流用または補修品ねじを注文  
して施工してください。

■固定片に取り付けているねじにワッシャーがない場合  
・製品同梱のねじで施工してください。



# 11 汚物流しの取り付け

## ⚠️ 注意



必ず実行

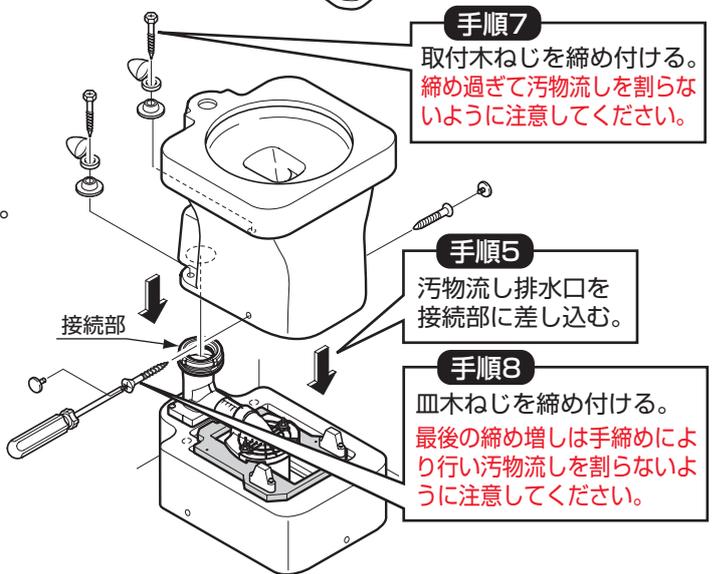
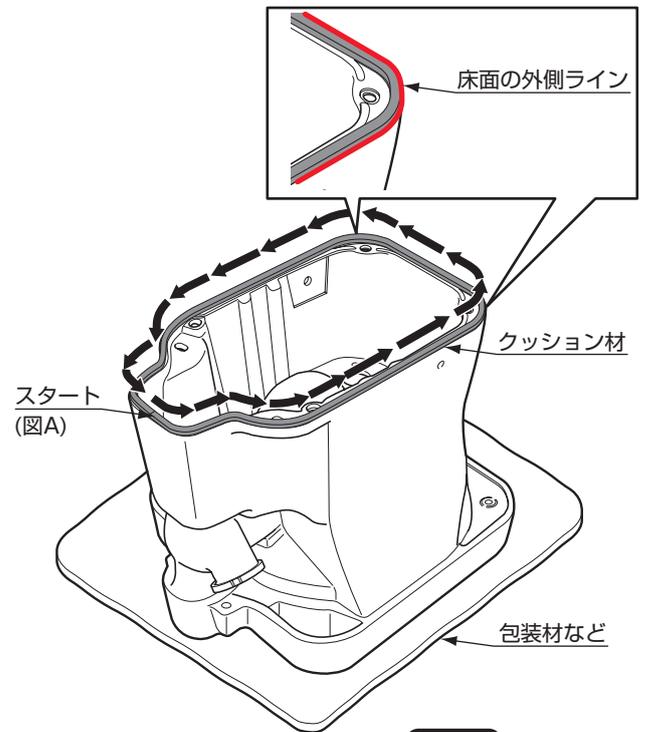
汚物流しの持ち運びや取り付けは必ず2人以上で行う

腰を痛めたり、器具を落として破損してけがをする原因になります。

汚物流し後ろ側の固定を必ず先に行う

横側の固定を先に行くと、汚物流しが移動し、ゴムジョイント部から水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。

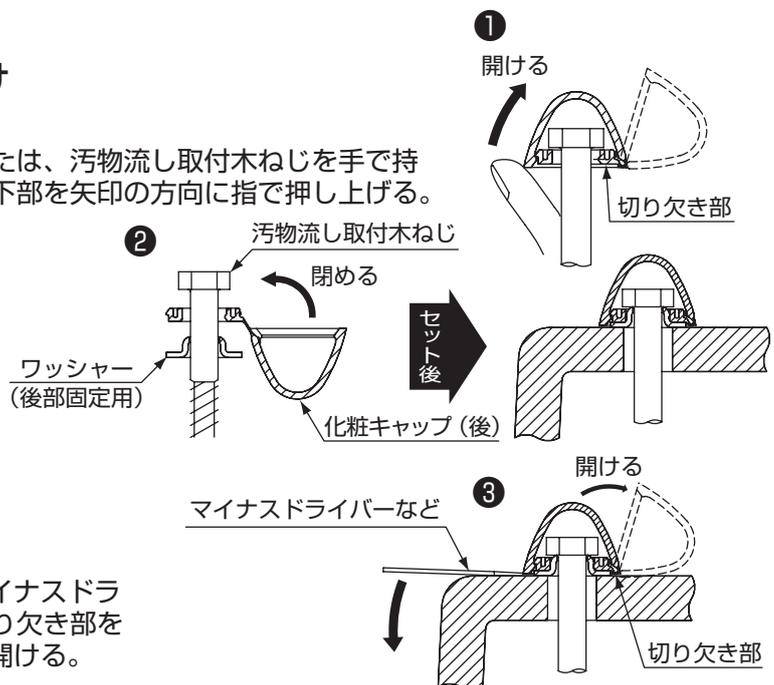
- ① 汚物流しを上面に傷が付かないようにひっくり返す。  
※包装材などを使用してひっくり返してください。
- ② 乾いた布で汚物流しの床接地面を拭く。  
※床接地面がぬれていない状態にしてください。  
※床接地面にゴミが付いていない状態にしてください。
- ③ 補高台に同梱のクッション材を汚物流し後ろ側（図A）より上から押し付けながら貼り付ける。  
※床接地面の外側ラインに貼り付けてください。
- ④ 汚物流しをクッション材がはがれないように気を付けながらひっくり返す。
- ⑤ 汚物流し排水口および排水ソケットの接続部周辺のごみや汚れを取り除き、汚物流し排水口を接続部に差し込む。
- ⑥ 汚物流しと補高台の左右の乗り幅を均等に合わせる。
- ⑦ 汚物流し後ろ側の取付穴（2カ所）に汚物流し取付木ねじ・化粧キャップ（後）・ワッシャー（後部固定用）を差し込み、汚物流しを補高台に固定する。
- ⑧ 汚物流し側面の取付穴に皿木ねじを差し込み、固定片に汚物流しを固定し、ねじの頭に化粧キャップ（横）を差し込む。



## ※化粧キャップ付きねじの取り付け

### <取り付け>

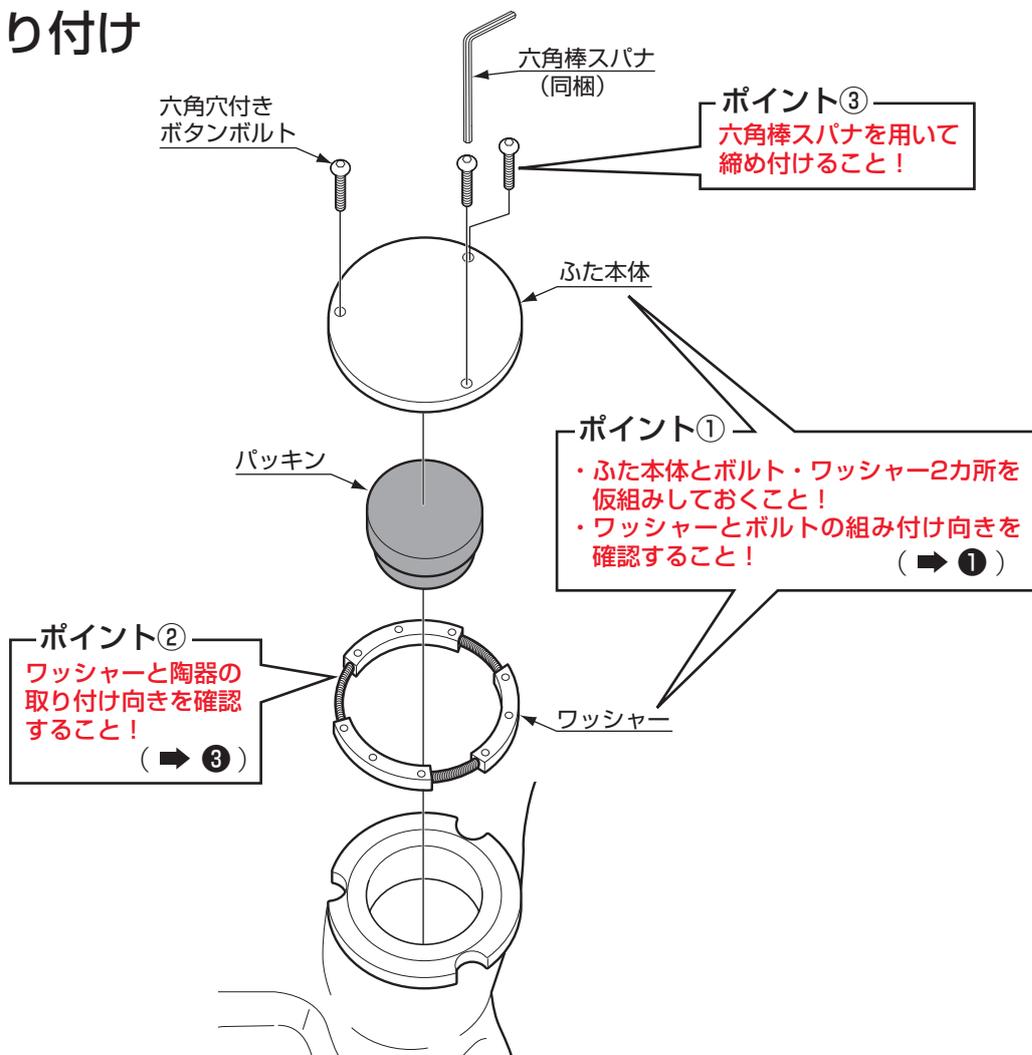
- ① 最初に化粧キャップ（後）を開ける。開けた時は、汚物流し取付木ねじを手で持ち切り欠き部をよけて化粧キャップ（後）の下部を矢印の方向に指で押し上げる。
- ② 汚物流し取付木ねじを取り付ける前に、化粧キャップ（後）とワッシャー（後部固定用）の順番、向きを確認し、間違えないよう取り付け。
- ③ 汚物流し取付木ねじを取り付けたあとは、化粧キャップ（後）を矢印の方向に曲げて「パチッ」と音がするまで押し込む。



### <取り外し>

施工後に汚物流し取付木ねじを外すときは、マイナスドライバーなどを使用し、化粧キャップ（後）の切り欠き部をよけて下部に差し込み、矢印の方向に押さえて開ける。

## 12 掃除口の取り付け



### ① 部品の仮組み

2カ所のみ仮組みする。

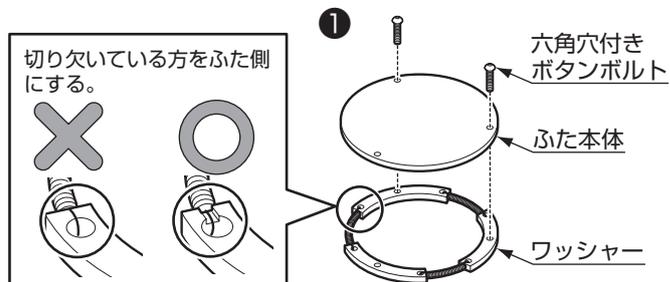
※残りの1カ所は④-②を参照してください。

### ⚠ 注意



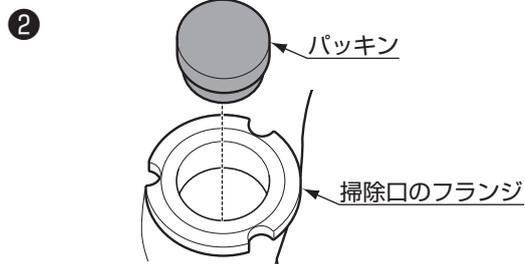
必ず実行

ワッシャーは正しい向きに取り付ける  
反対向きに取り付けると陶器または部品が破損するおそれがあります。



### ② パッキンの取り付け

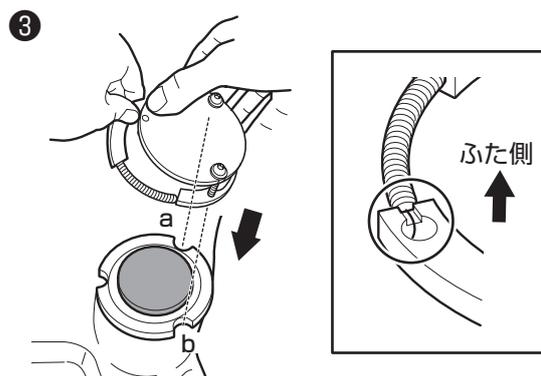
パッキンを掃除口に取り付ける。



### ③ ふた本体の取り付け

① 仮組みしていないワッシャーを手前の掃除口のフランジに掛け、ばねの伸びを利用して掃除口の後ろ2カ所の切り欠きa,bに ①で組み立てた本体を押し広げるように掃除口のフランジにかぶせて引っ掛ける。

② ワッシャーとふた本体で掃除口のフランジを挟み込むようにする。

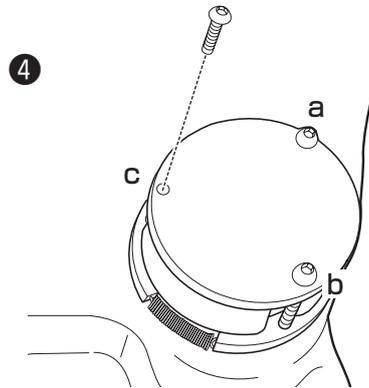


## 12 掃除口の取り付け（つづき）

### ④ ふた本体の仮締め

① ふた本体に手を添えて、汚物流し掃除口部と中心が合うようにふた本体の位置を調整しながら2本の六角穴付きボタンボルト(a,b)を締め付ける。

② c部に六角穴付きボタンボルト・ワッシャーを取り付け、仮締めする。



### ⚠ 注意



必ず実行

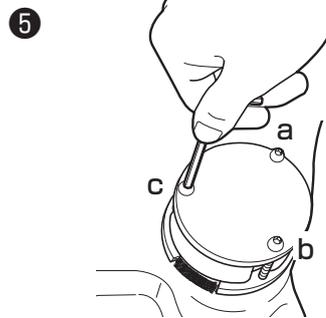
締め付けについては、汚物流し同梱の専用工具（六角棒スパナ）を右図の向きで使用する。誤った向きでの締め付けや、専用工具以外での締め付けは陶器または部品が破損するおそれがあります。

### ⑤ ふた本体の固定

固定の際は、専用工具（六角棒スパナ）を用いて、a, b, c を均等に締め付ける。

### ⑥ 固定の確認

ふた本体が確実に固定されているか確認する。



### ⚠ 注意



必ず実行

必ずふたを確実に固定したことを確認したうえで、洗浄を行うようにする。水漏れにより家財に損害を与えるおそれがあります。万一水漏れする場合には締め増しをしてください。

給水装置の施工説明書に沿って給水装置を施工してください。

## 13 水勢調整

水勢調整注意書ラベルを参照し、適正な水勢に調整してください。

### ⚠ 注意

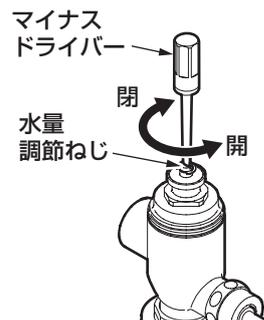
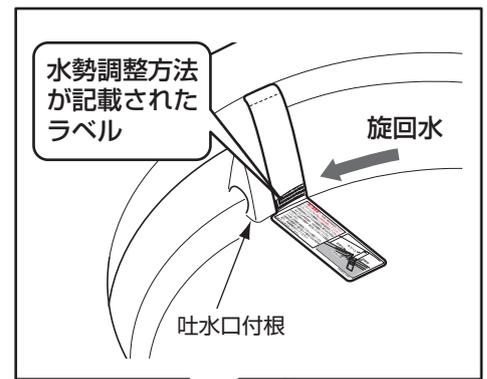


必ず実行

必ず2~3回流して洗浄水が飛び出していないことを確認する。汚物流し洗浄中に洗浄水が飛び出している場合は止水栓を絞り再度調整を行う。そのまま放置すると、洗浄水があふれて家財などをぬらす財産損害発生のおそれがあります。

〈低水圧現場で低水圧フラッシュバルブをご使用の場合〉  
止水栓全開でご使用ください。  
その後、洗浄水があふれないかご確認ください。

〈タンク式をご使用の場合〉  
水勢調整の必要はありません。



※施工後は必ずP.44「取り付け完了後の確認」を参照ください。

# 取り付け完了後の確認

## 外観・固定部の確認

### 外観の確認

- ①取り付け忘れの器具がないかの確認
- ②寸法の確認（奥行き・寸法）

### 固定部の確認

各器具の取付部の固定がゆるんでいないか確認してください。

#### ⚠注意



各部の固定がゆるんでいないか確認する  
器具が落下して使用される方がけがをする原因  
になります。

## 水漏れ確認のポイント

給排水管接続部が水漏れしていないことを確認してください。

- ①フラッシュバルブ側（給水管接続部・止水栓まわり）
- ②洗浄管・スパッド部
- ③床フランジ・接続部
- ④止水栓・水栓・バキュームブレーカー

汚物流しの排水部から水漏れが見られる場合は、再施工してください。

## 床と汚物流し・補高台のコーキング



必ず実行

汚物流しと床、汚物流しと補高台、補高台と床のすき間、汚物流し取り付け穴部には、防カビ性のシリコン系シーリング材（メジシール）を必ず塗布する

すき間に汚水が入ると、異臭や悪臭が発生し、不衛生な環境となります。

防カビ性の  
シリコン系シーリング材(メジシール)



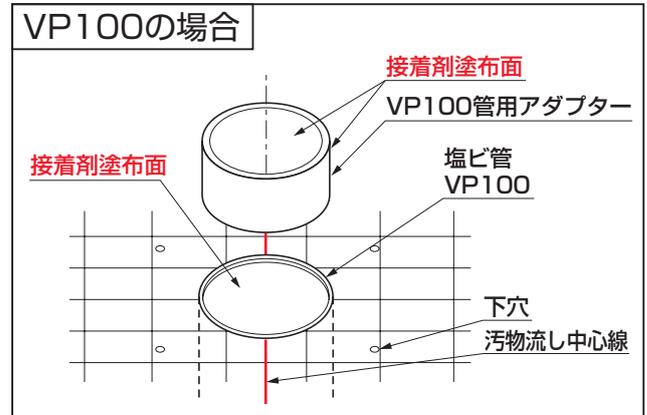
# 別途発注部品の施工方法

## HP330P施工説明書

### 床フランジの取り付け

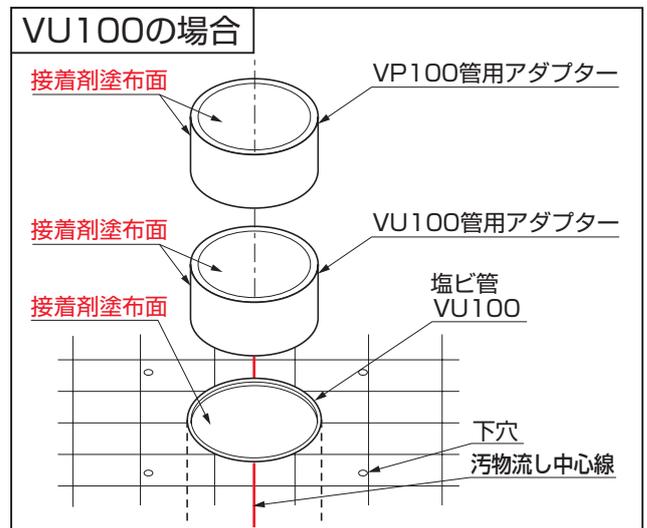
#### ●塩ビ管VP100の場合

- ①塩ビ管の床立ち上げ寸法は床仕上げ面と同一になるようにする。
- ②同梱のVP管用アダプターを使用し、先に床フランジ本体側に付ける。  
※その際、VP管アダプター内面および外周とフランジ本体接着剤塗布面に塩ビ用接着剤を塗り、取り付けてください。  
(VP管用アダプターを先に塩ビ管に取り付けますと、VP管用アダプターが所定の位置まで差し込めなかったり、排水管の中まで入り過ぎたりして、床と器具の間にすき間が発生し、異臭や水漏れの原因になります)
- ③床フランジの差し込み部外周(VP管アダプター内・外周)に塩ビ用接着剤を塗り、塩ビ管にいっぱいまで押し込む。  
(接着剤を使用しないと異臭・水漏れの原因になります)  
※その際、必ず床フランジの突起物を器具の中心にあわせてください。  
※一度接着しますと、手直しができませんのでご注意ください。
- ④木ねじ4本で床フランジを床に固定する。



#### ●塩ビ管VU100の場合

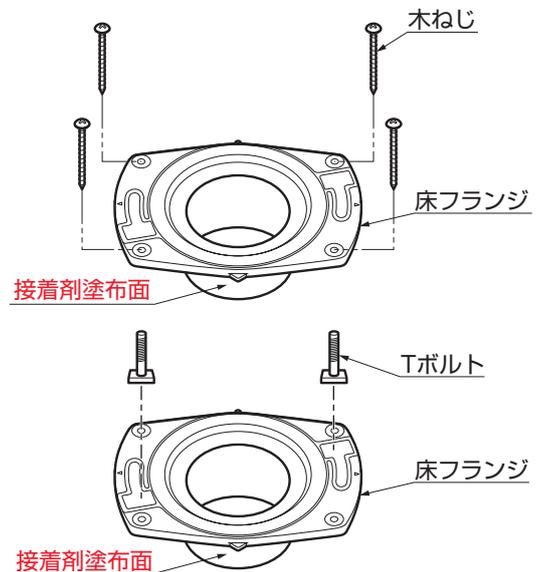
- ①塩ビ管の床立ち上げ寸法は床仕上げ面と同一になるようにする。
- ②同梱のVU管用アダプターを使用し、先に床フランジ本体側に付ける。  
※その際、VU管アダプター内面および外周とフランジ本体接着剤塗布面に塩ビ用接着剤を塗り、取り付けてください。  
(VU管用アダプターを先に塩ビ管に取り付けますと、VU管用アダプターが所定の位置まで差し込めなかったり、排水管の中まで入り過ぎたりして、床と器具の間にすき間が発生し、異臭や水漏れの原因になります)
- ③床フランジの差し込み部外周(VU管アダプター内・外周)に塩ビ用接着剤を塗り、塩ビ管にいっぱいまで押し込む。  
(接着剤を使用しないと異臭・水漏れの原因になります)  
※その際、必ず床フランジの突起物を器具の中心にあわせてください。  
※一度接着しますと、手直しができませんのでご注意ください。
- ④木ねじ4本で床フランジを床に固定する。



## ●塩ビ管VP75の場合

- ①塩ビ管の床立ち上げ寸法は床仕上げ面と同一になるようにする。
- ②床フランジの差し込み部外周および塩ビ管内面に塩ビ用接着剤を塗り、塩ビ管にいっぱいまで押し込む。  
(接着剤を使用しないと異臭・水漏れの原因になります)  
※その際、必ず床フランジの突起物を器具の中心にあわせてください。  
※一度接着しますと、手直しができませんのでご注意ください。
- ③木ねじ4本で床フランジを床に固定する。  
※Tボルトは汚物流しに同梱されています。

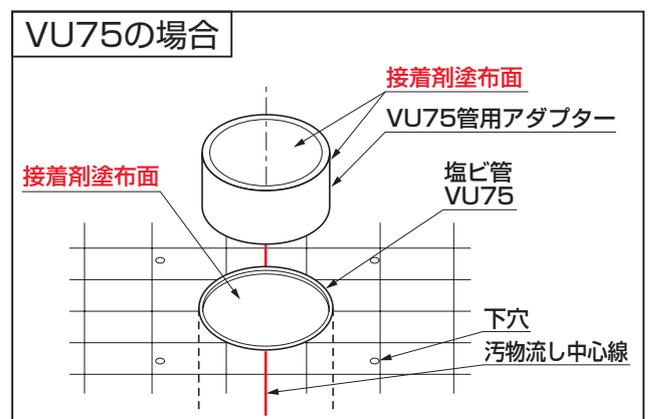
汚物以外の異物を誤って流された場合の配管詰まりを考慮し、φ100mmの配管をおすすめします。



## ●塩ビ管VU75の場合

- ①塩ビ管の床立ち上げ寸法は床仕上げ面と同一になるようにする。
- ②同梱のVU管用アダプターを使用し、先に床フランジ本体側に付ける。  
※その際、VU管アダプター内面および外周とフランジ本体接着剤塗布面に塩ビ用接着剤を塗り、取り付けてください。  
(VU管用アダプターを先に塩ビ管に取り付けますと、VU管用アダプターが所定の位置まで差し込めなかったり、排水管の中まで入り過ぎたりして、床と器具の間にすき間が発生し、異臭や水漏れの原因になります)
- ③床フランジの差し込み部外周(VU管アダプター内・外周)に塩ビ用接着剤を塗り、塩ビ管にいっぱいまで押し込む。  
(接着剤を使用しないと異臭・水漏れの原因になります)  
※その際、必ず床フランジの突起物を器具の中心にあわせてください。  
※一度接着しますと、手直しができませんのでご注意ください。
- ④木ねじ4本で床フランジを床に固定する。

汚物以外の異物を誤って流された場合の配管詰まりを考慮し、φ100mmの配管をおすすめします。

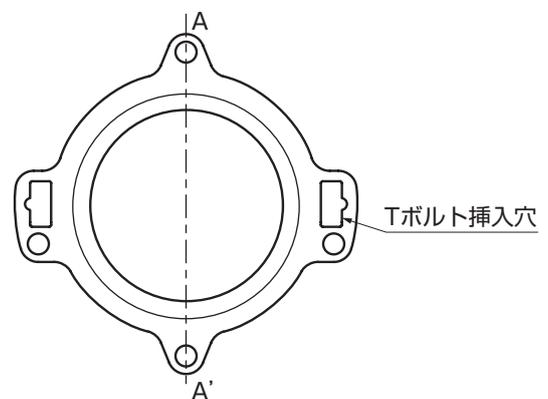


## HP330W施工説明書

### 床フランジの取り付け

#### ●鉛管φ100の場合

- ①床仕上げ後、排水管の位置が正しいか確かめてからフランジのテーパ部分が床の中に入るよう排水管周辺をはつる。
- ②床フランジを排水管に差し込み、右図A~A'の点を器具中心にあわせ、木ねじで固定する。  
(固定が不十分ですと水漏れの原因になります)
- ③排水管を床上15mmで切断し、床フランジのテーパ部まで沿わせ、床フランジの上部まで十分に広げる。
- ④広げた鉛管の上端を床フランジにハンダ付けする。



## HP330F施工説明書

- HP330Fの取付方法については、補高台セットに関する施工説明書内に記載しておりますので、そちらを参照ください。

# Pシールの施工方法

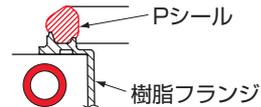
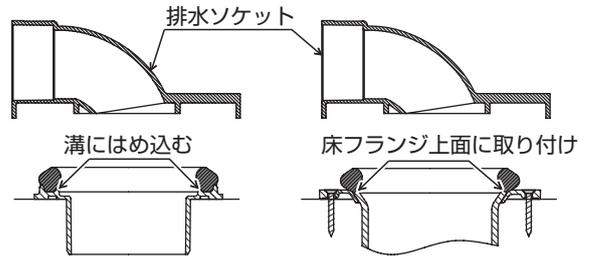
## ⚠️ 注意

### Pシール取り扱い上の注意

- 樹脂、金属フランジともに、このPシールを使用する。
- Pシールは、必ず床フランジ側にセットし、排水ソケットを上から押し付けてください。  
Pシールを間違えて取り付けると、洗浄不良などの不具合や汚物流しが詰まり汚水があふれたり、水漏れして家財などをめらす財産損害発生のおそれがあります。
- 樹脂フランジの場合、Pシールはきちんと取り付けてください。

【床フランジ(樹脂)の場合】

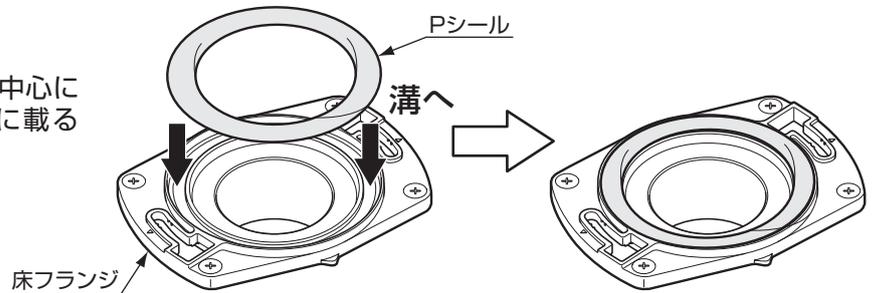
【床フランジ(金属)の場合】



必ず実行

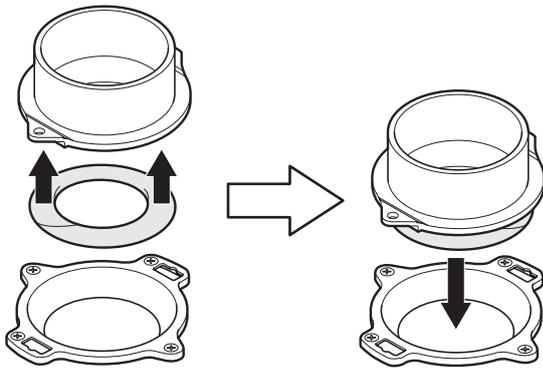
### ○HP330P(床フランジ(樹脂))への取付方法

※Pシールの円の中心が床フランジの円の中心にくるイメージで床フランジの縁に均等に載るようにPシールを取り付けてください。



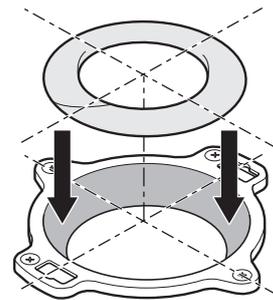
塩ビ管用Pシールは、できるだけ床フランジ(樹脂)の溝の縁の形に合うように取り付けてください。

### ○HP330F(ソケット)への取付方法



鉛管用Pシールは、ソケット側に取り付けてから、床フランジ(金属)へ取り付けてください。

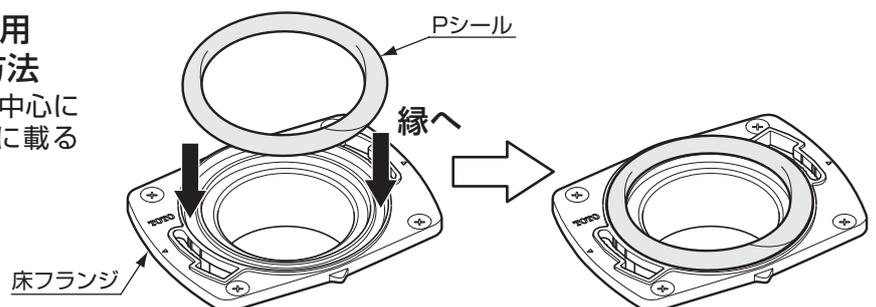
### ○HP330W(床フランジ(金属))への取付方法



※Pシールの円の中心が床フランジの円の中心にくるイメージで床フランジの縁に均等に載るようにPシールを取り付けてください。

### ○その他床フランジ(現行品：SK33用(HP33F φ100専用))への取付方法

※Pシールの円の中心が床フランジの円の中心にくるイメージで床フランジの縁に均等に載るようにPシールを取り付けてください。



塩ビ管用Pシールは、床フランジ(樹脂)の溝の形に合うように取り付けてください。